

(そ - 2) 北部第2ポンプ場更新工事
設計図面目録 (建築工事)

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
《意匠》		
A-1	建築工事特記仕様書 1	—
A-2	建築工事特記仕様書 2	—
A-3	建築工事特記仕様書 3	—
A-4	建築工事特記仕様書 4	—
A-5	建築工事特記仕様書 5	—
A-6	建築工事特記仕様書 6	—
A-7	建築工事特記仕様書 7	—
A-8	建築工事特記仕様書 8	—
A-9	建築工事 配置図	S=1/150
A-10	仕上表、面積表	—
A-11	平面図	S=1/150
A-12	仕上表、立面図	S=1/150
A-13	断面図	S=1/150
A-14	1 階平面詳細図	S=1/50
A-15	2 階平面詳細図	S=1/50
A-16	矩計図	S=1/50
A-17	建具表、建具キープラン	S=1/50, 200
A-18	内部階段詳細図	S=1/50
A-19	外部階段詳細図 (1)	S=1/30
A-20	外部階段詳細図 (2)	S=1/10, 50
A-21	展開図 1	S=1/100
A-22	展開図 2	S=1/100
A-23	展開図 3	S=1/100
A-24	部分詳細図 1	S=1/2, 20
A-25	部分詳細図 2	S=1/5, 20
A-26	部分詳細図 3	S=1/5, 20, 50
A-27	1 階 貫通孔位置図 (参考)	S=1/50
《構造》		
S-1	新構造設計特記仕様その 1	—
S-2	新構造設計特記仕様その 2	—
S-3	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (1)	—
S-4	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (2)	—
S-5	新鉄筋コンクリート構造配筋詳細標準図 (3)	—
S-6	柱 状 図	S=1/150
S-7	杭 伏 図	S=1/150
S-8	1階、2階、R階床梁伏図	S=1/150

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
《構造》		
S-9	軸組図 (1)	S=1/150
S-10	軸組図 (2)	S=1/150
S-11	基礎リスト (1)	S=1/50
S-12	基礎リスト (2)	S=1/50
S-13	1階、2階柱リスト	S=1/40
S-14	大梁リスト	S=1/40
S-15	小梁・壁・柱リスト	S=1/40
S-16	断面配筋詳細図 (1)	S=1/50
S-17	断面配筋詳細図 (2)	S=1/50
S-18	断面配筋詳細図 (3)	S=1/50
S-19	B 通り配筋詳細図	S=1/50
S-20	雑配筋詳細図 (1)	S=1/20
S-21	雑配筋詳細図 (2)	S=1/30
S-22	雑詳細図	S=1/30
《付帯機械設備》		
AM-1	建築機械設備特記仕様書 (1)	—
AM-2	建築機械設備特記仕様書 (2)	—
AM-3	空調換気設備 凡例・機器表	—
AM-4	空調換気設備 1 階・2 階配管平面図	S=1/100
AM-5	空調換気設備 1 階・2 階ダクト平面図	S=1/100
AM-6	空調換気設備 R 階ダクト平面・断面図	S=1/100
AM-7	給排水衛生設備 凡例・機器表・1 階平面図	S=1/100
AM-8	給排水衛生設備 2 階平面図	S=1/100
《付帯電気設備》		
AE-1	建築電気設備特記仕様書	—
AE-2	電灯設備 凡例 器具姿図 盤結線図	—
AE-3	電灯設備 平面図	S=1/100
AE-4	コンセント設備 平面図	S=1/100
AE-5	電灯設備 断面図	S=1/100
AE-6	動力設備 盤結線図 平面図	S=1/100
AE-7	屋外電灯設備 平面図	S=1/100
《解体工事》		
K-1	解体工事 既設建屋解体図 (1)	S=1/50
K-2	解体工事 既設建屋解体図 (2)	S=1/50

4 地 業 工 事 （ 続 き ）	3 鋼杭地業	寸法、寸法、継手等(4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)	5 鉄 筋 工 事 （ 構 造 図 優 先 ）	組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※重ね継手 重ね継手の長さ ・ 図示による（ ）(4.5.4)(5.3.4)	⑥ 圧接完了後の試験	外観試験 ※行う（全ての圧接部）(5.4.10)(5.4.11)	抜取試験 ※超音波探傷試験(5.4.10)(5.4.11)	試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。 試験の箇所数：1ロットに対して30か所とし、ロットから無作為に抜き取る。	・引張試験 試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200か所を超えるときは200か所ごととする。 試験の箇所数：1ロットに対して（ ・ 3本 ・ 5本 ）とする。	適用箇所 ・ 図示による（ ）	H12建告第1463号に適合する性能 ・ A級	機械式継手の種類 ・ 図示による（ ）	鉄筋相互のあき ・ 図示による（ ）	施工完了後の継手部の試験 ○ 図示による（ ）	不合格となった継手部への措置 ・ 図示による（ ）	適用箇所 ・ 図示による（ ）	H12建告第1463号に適合する性能 ・ A級	溶接継手の工法 ・ 図示による（ ）	鉄筋相互のあき ・ 図示による（ ）	溶接完了後の継手部の試験 ○ 図示による（ ）	不合格となった継手部への措置 ・ 図示による（ ）	⑦ 打増し厚さ （打放し仕上げ部） 打増し厚さ ○ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ○ 20mm ○ 50 ・ 打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・ 10mm ・ 20mm ・ 外装タイル後張り面の打増し処理 ・ 20mm	打増し範囲 ・ 図示による（ ）	⑧ 型枠 せき板の材料及び厚さ ○ 合板（※12mm 図） ○ 断熱材の兼用した型枠 使用箇所 ○ 図示による（ ） ・ MCR工法用シート 適用箇所 ・ 図示による（ ） 打増し厚さ ・ 20mm 打増し範囲 ・ 図示による（ ）	スリーブの材質・規格等 ・ 図示による（ ）	9 軽量コンクリート 種類 ・ 1種 ・ 2種 適用箇所 ・ 図示による（ ） スランプ ※21cm	10 寒中コンクリート 適用期間 ・ 図示による（ ） ・ 積算温度を基に定める場合 ・ 図示による（ ）	11 暑中コンクリート 構造体強度補正值(S) ※6N/mm	12 マスコンクリート 適用箇所 ・ 図示による（ ） セメントの種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 中腐熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種G ・ フライアッシュセメントB種 ・ シリカセメント	混和材料 ・ 混和剤 混和剤の種類 ※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤	スランプ ※15cm	構造体強度補正值（s） ※表6.13.1による	工 事 件 名 （そー2）北部第2ポンプ場更新工事	工 事 場 所 甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）	図 面 名 建築工事特記仕様書2 縮 尺	—	分 割	A- 2/27	甲府市上下水道局	管理番号	R 6 そー2	マイクNo.																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
---	-----------	--------------------------------	--	--	------------	-------------------------------------	----------------------------------	---	--	--------------------	----------------------------	------------------------	-----------------------	----------------------------	------------------------------	--------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	------------------------------	--	---------------------	--	---------------------------	--	---	--------------------------------------	--	---	---------------	----------------------------	------------------------------	--------------------------------	-------------------------	---	-----	---------	----------	------	---------	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

6
コンクリート工事（続き）

⑬ 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート

(6.2.1) (6.14.1)

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種○
・フライアッシュセメントB種○

(6.3.1)

設計基準強度
※18(N/mm²)

(6.14.1)

スラブ
※15cm又は18cm

(6.14.1)

適用箇所
・標準仕様書 6.14.1(4) (7)～(h)による
○図示による（ ）

(6.14.1)

14 流動化コンクリート

適用箇所
・図示による（ ）

(6.15.1)

15 コンクリートの単位
水量測定

・行う ・行わない
実施要領
(1)単位水量の測定は、150㎖に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4) (c)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）
±15kg/㎖の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/㎖の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/㎖ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/㎖ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/㎖ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/㎖ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/㎖ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

(6.15.1)

7 鉄骨工事（構造図優先）

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力
・

(7.1.3)

② 施工管理技術者

・適用する
・適用しない

(7.1.3) (7.1.4)

③ 鋼材

材質等
種類の記号 適用箇所（主要な部分） 規格
SS400 外部鉄骨階段 ○JIS規格による
・
・JIS規格による
・
・JIS規格による
・
・JIS規格による
・
・JIS規格による
・

(7.2.1)

④ 高力ボルト

高力ボルトの種類
○トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
○図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図） 1-1 縁端距離及びボルト間隔）
摩擦面の処理方法等
溶融亜鉛めっき面以外
※標準仕様書7.4.2(1)による
・
溶融亜鉛めっき面
○ブラスト処理
・りん酸塩処理
・すべり試験
試験の方法等
・図示による（ ）

(7.2.2)

5 普通ボルト

ボルト及びナットの種類
※標準仕様書表7.2.3による
座金
・標準仕様書7.2.3(4)による
ボルトの形状等（ねじの呼び）
・図示による（ ）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図） 1－1 縁端距離、ボルト間隔）
・
⑥ アンカーボルト

適用
○構造用アンカーボルト
種類 ○SS400
形状 寸法
○図示による（ ）
・建方用アンカーボルト
種類
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書表7.2.3による
形状 寸法
・図示による（ ）

(7.2.3) (7.2.3

9
防水工事

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2.3) (表9.3.1～3)

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材G	防湿層	仕上塗料	高日射反射率防水の適用G
・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・ASI-T1 ・ASI-U1		(厚さ) ・25mm	・設ける(改質アスファルト製造所の仕様による) ・設けない	・製造所の指定による ・製造所の仕様による	・ ・ ・ ・ ・ ・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
断熱材の種類
押え金物
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
・改質アルファルトシートの製造所の指定の種類及び設置数量
・種類() 設置数量(個)

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱用シートの材質	断熱材G	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
・S-F1				・製造所の指定による ・製造所の仕様による	・
○S-F2 ・S-M1	屋上・水槽上部			・製造所の指定による ・製造所の仕様による	○
・S-M2 ・S-M3 ・SI-F1			(厚さ) ・25mm	・製造所の指定による ・製造所の仕様による	・
・SI-F2 ・SI-M1			(厚さ) ・25mm	・製造所の指定による ・製造所の仕様による	・
・SI-M2		※発泡ポリイソレネシート		・製造所の指定による ・製造所の仕様による	・

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	平場のモルタル塗り 塗り厚さ	保護層	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1	・	・	・床塗り ・下地モルタル塗り	※7mm以下 ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
立上り面のシートの厚さ (S-M2及びSI-M2で接着工法の場合)
※1.5mm
固定金具の材質及び形状
材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの
厚さ(mm) ※0.4以上
断熱材の種類
断熱工法の場合の防湿用フィルム
・設置する
・設置しない
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
・ルーフィングシートの製造所の仕様による
・種類() 設置数量(個)
防水下地・P・Cコンクリート部材下地の処理
目地処理 ※図示
入隅部の増張り (S-F1, SI-F1の場合)
※図示
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 1.15 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

④ 塗膜防水

(9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2)

防水層の種類

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水の適用
・X-1		・製造所の指定による ・製造所の仕様による		・
○X-2	庇・排気塔上部	・製造所の指定による ・製造所の仕様による		・
・Y-1	※地下外壁防水			
・Y-2	※屋内防水			・適用する ・適用しない

ウレタンゴム系塗膜防水 X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
・主材料の製造所の仕様による
・種類() 設置数量(個)

ゴムアスファルト系塗膜防水 Y-1, Y-2
工程数及び各工程の使用量
・主材料の製造所の仕様による
・

5 ケイ酸質系塗布膜防水

(9.6.1.3) (表9.6.1.2)

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-UI		C-UP	

防水層の下地 (壁及び天井) ・コンクリート打放 (B種) ・
下地処理 (コンクリートの打継処理) ・標準仕様書9.6.4(2) (7) ・
(9.7.2) (表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.1Iによる
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(I)による
接着性試験 ※簡易接着性試験 ※引張接着性試験

⑤ シーリング

(10.1.3) (10.1.5)

天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		・正方形に近い矩形				

テラズブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材
※石材施工業者の指定する製品

(10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3)

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法
・L-75×75×6 (mm) の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6 (mm) の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地こしらえ ※流し工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法

ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質： 寸法：)
目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1Iによる ・図示
シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上
・図示

4 内壁空積工法

(10.2.2) (10.4.2) (10.4.3)

受金物 材質 ※SUS304
形状及び寸法
・L-75×75×6 (mm) の加工 長さ=100mm
・L-75×75×6 (mm) の加工 長さ=150mm

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地こしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 (材質： 寸法：)
目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上
伸縮調整目地 位置 ※6mごと ・図示
シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上
・図示

12 木工事

1 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	
・H-A種	
・H-B種	
・H-C種	

2 製材G

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1) (表12.2.2)

「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※2級		※A種 ・B種	・
			※2級		※A種 ・B種	・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理
見え掛り面			※上小節		※A種 ・B種	・
見え掛り面以外			※小節以上		※A種 ・B種	・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

7 アーチ、石張り、上げ妻等

8 笠木、甲板等の石張り

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3) (表11.1.1)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示

② セメントモルタルによるタイル張り

(11.2.2) (11.2.3) (11.2.7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用G	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考
外部階段	150×60	○	○	○	○	○	○	○	
ノンスリップ		・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理
・MOR工法
・目荒し工法 (高圧洗浄)

壁タイル張りの工法
内装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り
・改良圧着張り ・ユニットタイル
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・既調合モルタルの使用
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

3 有機系接着剤によるタイル張り

(11.3.2～4) (11.3.7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用G	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による)
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材
下地調整塗材塗りをううコンクリート素地面の処理
・MOR工法
・目荒し工法 (高圧洗浄)

12 木工事

2 製材G

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1) (表12.2.2)

「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理
			※2級		※A種 ・B種	・
			※2級		※A種 ・B種	・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理
見え掛り面			※上小節		※A種 ・B種	・
見え掛り面以外			※小節以上		※A種 ・B種	・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

3 造作用集成材G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質
				※1等 ・2等 ※1等 ・2等

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質
						※1等 ・2等 ※1等 ・2等

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15以下 ・
				※15以下 ・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
						※15以下 ・
						※15以下 ・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
						※15以下 ・
						※15以下 ・

間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所：)

工 事 件 名

(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事

工 事 場 所

甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)

図 面 名

建築工事特記仕様書 4

縮 尺

—

分 割

A- 4/27

甲府市上下水道局

管理番号

R 6-そー2

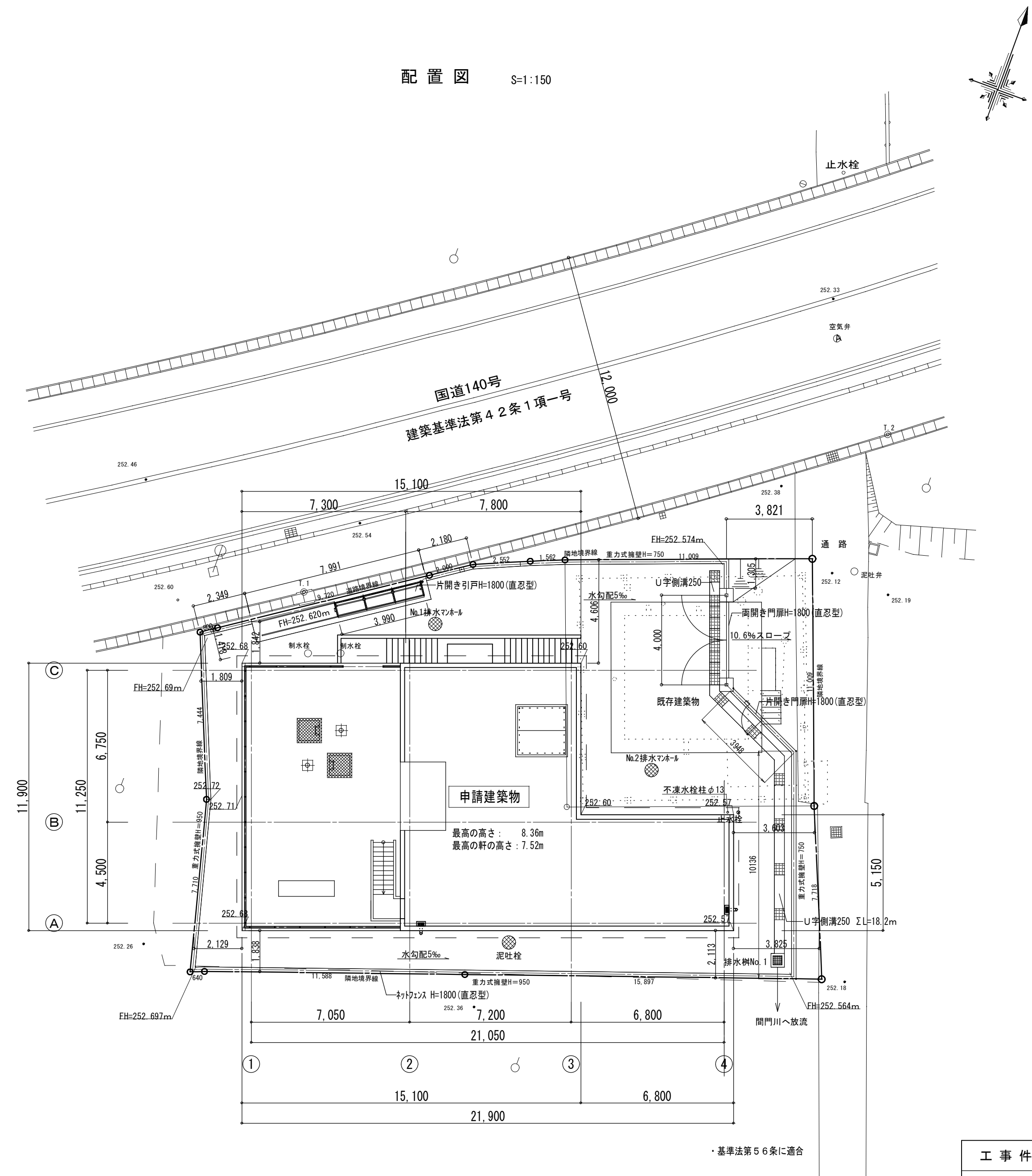
マイクNo.

12 木 工 事	4 造作用単板積層材③	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) (12.2.1) ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面の化粧加工</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し (等級: ・1等 ・2等 ・3等)</td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面の化粧加工</th><th>含水率</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()</td><td>※14%以下 ※14%以下</td><td>・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・CLT〔直交集成板〕 <table><tr><th>施工箇所</th><th>品名</th><th>曲げ性能 (強度等級)</th><th>種別</th><th>接着性能 (使用環境)</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用			・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し (等級: ・1等 ・2等 ・3等)	・適用する ・適用しない	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理の適用			・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	※14%以下 ※14%以下	・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない	施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)								7 防腐・防蟻処理 (12.3.1) (12.3.2) ・防腐・防蟻処理が必要な樹種による製材及び集成材 適用部位: () ・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 <table><tr><th>適用部位</th><th>保存処理性能区分</th></tr><tr><td></td><td>・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4</td></tr></table> ・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 <table><tr><th>適用部位</th><th>処理の方法</th></tr><tr><td></td><td>※標準仕様書12.3.1 (4) (b)①～④による</td></tr></table> ・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 適用部位: () 8 間仕切軸組に用いる木材 (12.4.1) ・杉又は松 9 床組に用いる木材 (12.4.1) (土間スラブの土台、転ばし大引き及び転ばし根太は除く) ・杉又は松 10 窓、出入口、その他に用いる木材 (12.5.1) 吊元枠、水掛りの下枠及び数居: ・ひのき 上記以外: ・松又は杉 11 絶甲板及び上がまちに用いる木材 (12.6.1) ・ひのき 12 壁及び天井に用いる木材 (12.7.1) ・杉又は松	適用部位	保存処理性能区分		・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4	適用部位	処理の方法		※標準仕様書12.3.1 (4) (b)①～④による																																																																																															
	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用																																																																																																																																						
			・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し (等級: ・1等 ・2等 ・3等)	・適用する ・適用しない																																																																																																																																						
	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理の適用																																																																																																																																					
			・有り (加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	※14%以下 ※14%以下	・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない																																																																																																																																					
	施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)																																																																																																																																			
	適用部位	保存処理性能区分																																																																																																																																								
		・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4																																																																																																																																								
	適用部位	処理の方法																																																																																																																																								
	※標準仕様書12.3.1 (4) (b)①～④による																																																																																																																																									
5 床張り用合板等 (12.2.1)	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) (12.2.1) ・「合板の日本農林規格」による普通合板③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表板の樹種名</th><th>接着の程度</th><th>板面の品質</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td>※5.5</td><td></td><td>※1類 ・2類</td><td>広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上</td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「合板の日本農林規格」による構造用合板③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>等級</th><th>単板の樹種名</th><th>接着の程度</th><th>板面の品質</th><th>防虫処理の適用</th><th>強度等級</th></tr><tr><td></td><td>※12</td><td>・1級 ※2級以上</td><td></td><td>・1類 ・特類</td><td>・ ※C-D以上</td><td>・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない</td><td></td></tr><tr><td></td><td>※12</td><td>・1級 ※2級以上</td><td></td><td>・1類 ・特類</td><td>・適用する ・適用する</td><td>・適用する ・適用しない</td><td></td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「合板の日本農林規格」による化粧びばり構造用合板③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>単板の樹種名</th><th>接着の程度</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・1類 ・特類</td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>化粧板に使用する単板の樹種名</th><th>厚さ (mm)</th><th>接着の程度</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・1類 ・2類</td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>接着の程度</th><th>単板の樹種名</th><th>化粧加工の方法</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・1類 ・2類</td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:) ・パーティクルボード③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>表裏面の状態による区分</th><th>曲げ強さによる区分</th><th>接着剤による区分</th><th>難燃性による区分</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※13タイプ</td><td>※P又はM</td><td></td><td>※15</td></tr></table> ・構造用パネル <table><tr><th>施工箇所</th><th>等級</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td></td><td>・1級 ・2級 ・3級 ・4級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級</td><td></td></tr></table> ・MD F③ <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表裏面の状態による区分</th><th>曲げ強さによる区分</th><th>接着剤による区分</th><th>難燃性による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 間伐材等の適用 ・する ・しない (施工箇所:)	施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用		※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	施工箇所	厚さ (mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	強度等級		※12	・1級 ※2級以上		・1類 ・特類	・ ※C-D以上	・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない			※12	・1級 ※2級以上		・1類 ・特類	・適用する ・適用する	・適用する ・適用しない		施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用				・1類 ・特類	・適用する ・適用しない	施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理の適用				・1類 ・2類	・適用する ・適用しない	施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用			・1類 ・2類			・適用する ・適用しない	施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)			※13タイプ	※P又はM		※15	施工箇所	等級	厚さ (mm)		・1級 ・2級 ・3級 ・4級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級		施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分							13 屋根及びびとい工事 1 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) <table><tr><th>施工箇所</th><th>板及びコイルの種類</th><th>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号</th><th>厚さ (mm)</th><th>屋根葺き形式</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※JIS G 3322の屋根用コイル</td><td></td><td></td><td>・心木なし瓦葺葺 ・平葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺</td><td></td></tr></table> 下葺材料 ・アスファルトルーフィング940 ・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層葺材タイプ ・粘着層付タイプ) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 雪止め ・設置する 図示 () 2 折板葺 (13.2.2) (13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table><tr><th>施工箇所</th><th>形式</th><th>山高、山ピッチによる区分</th><th>耐力による区分</th><th>材料による区分</th><th>厚さ (mm)</th><th>野舎面戸板</th></tr><tr><td></td><td>・重ね形 ・はざ締め形 ・かん合形</td><td></td><td>() 種</td><td>※銅板製 ・アルミニウム合金板製</td><td></td><td>・有り ・無し</td></tr></table> 材料 板及びコイルの種類 () 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 () タイフフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合は 表面処理 (標準仕様書表14.2.2による ・E種 ・F種) 断熱材 ・有り (種別: 厚さ (mm): 防火性能: 時間) ・無し 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 折板のけらは納め ※けらは包みによる方法 3 粘土瓦葺 (13.4.2.3) <table><tr><th>施工箇所</th><th>種類</th><th>大きさ</th><th>産地</th><th>役物瓦の種類</th><th>雪止め瓦</th></tr><tr><td></td><td>製法による区分 形状による区分 寸法による区分</td><td></td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない</td></tr></table> 凍害試験 ・行う ・行わない 瓦棧木 材質 ※杉 寸法 ※幅21×高さ15 (mm) 以上 棟補強用心材 材質 ※杉 寸法 ※幅40×高さ30 (mm) 以上 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・適用しない 瓦棧木の留付け工法 ※図示 棟の工法 ・7吋丸伏せ棟又はF型用冠瓦伏せ棟 ・のし積み棟 ④とい (13.5.2.3) といの材種 ・配管用銅管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ・とい受金物 とい受金物の材種、形状、取付け間隔 ※表13.5.2による 足金物の材種、形状、取付け間隔 ※表13.5.2による 多雪地域の場合の軒といの取付間隔 ※0.5m以下 ロックウール保温箇のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 銅管製といの防露巻き ・適用する (工法: ※標準仕様書 表13.5.4による) ・適用しない	施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺き形式	備考		※JIS G 3322の屋根用コイル			・心木なし瓦葺葺 ・平葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺		施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	野舎面戸板		・重ね形 ・はざ締め形 ・かん合形		() 種	※銅板製 ・アルミニウム合金板製		・有り ・無し	施工箇所	種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦		製法による区分 形状による区分 寸法による区分				・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない
施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用																																																																																																																																					
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない																																																																																																																																					
施工箇所	厚さ (mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	強度等級																																																																																																																																			
	※12	・1級 ※2級以上		・1類 ・特類	・ ※C-D以上	・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない																																																																																																																																				
	※12	・1級 ※2級以上		・1類 ・特類	・適用する ・適用する	・適用する ・適用しない																																																																																																																																				
施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用																																																																																																																																						
			・1類 ・特類	・適用する ・適用しない																																																																																																																																						
施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理の適用																																																																																																																																						
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない																																																																																																																																						
施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用																																																																																																																																					
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない																																																																																																																																					
施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)																																																																																																																																					
		※13タイプ	※P又はM		※15																																																																																																																																					
施工箇所	等級	厚さ (mm)																																																																																																																																								
	・1級 ・2級 ・3級 ・4級 ・1級 ・2級 ・3級 ・4級																																																																																																																																									
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分																																																																																																																																					
施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺き形式	備考																																																																																																																																					
	※JIS G 3322の屋根用コイル			・心木なし瓦葺葺 ・平葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺																																																																																																																																						
施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	野舎面戸板																																																																																																																																				
	・重ね形 ・はざ締め形 ・かん合形		() 種	※銅板製 ・アルミニウム合金板製		・有り ・無し																																																																																																																																				
施工箇所	種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦																																																																																																																																					
	製法による区分 形状による区分 寸法による区分				・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない																																																																																																																																					
6 接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による)	14 金属工事 1 ステンレスの表面仕上げ (14.2.1) ② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2) (表14.2.1) ③ 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2) 4 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2～4) (表14.4.1) 5 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) (表14.5.1) 6 金属成形板張り (14.6.3) (表14.2.1) ⑦ アルミニウム製笠木 (14.7.2) (14.7.3) (表14.2.1) (表14.7.1) 8 手すり及びタラップ (14.8.2) (14.8.3)	1 ラス系下地 (15.2.4) 左官工事 2 セッコウボード、その他のボード下地 (15.2.5) 3 こまい下地 (15.2.6) 4 木ずり下地 (15.2.7) ⑤ モルタル塗り (15.3.2) (15.3.5) 6 セルフレベリング材塗り (15.5.2) (表15.5.1) ⑦ 仕上塗材仕上げ (15.6.2) (表15.6.1) 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) 仕上塗材の種類 <table><tr><th>種類</th><th>呼び名</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・薄付け仕上塗材</td><td>・外装薄塗材S ・可とう形外装薄塗材S ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E</td><td>・ ・ ・ ・ ・</td><td>・砂壁状 ・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り) ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り) ・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく</td></tr><tr><td>・厚付け仕上塗材</td><td>・外装厚塗材C ・外装厚塗材S ・外装厚塗材E ・内装厚塗材C ・内装厚塗材G ・内装厚塗材S ・内装厚塗材E ・内装厚塗材W</td><td>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td><td>・吸放湿性 ・耐湿性 ・吹放し ・凹凸状 ・ゆず肌状 ○凸部処理 ・凹凸状 ・上塗材 ・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない</td></tr><tr><td>○複層仕上塗材</td><td>・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S ・複層塗材E ○複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE</td><td>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td><td>・上塗材 ・耐候性 ※耐候形3種 ・溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・樹脂 ※アクリル系 ・外観 ※つやあり ・つやなし ・メリツ</td></tr><tr><td>・軽量骨材仕上塗材</td><td>・吹付け軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材</td><td>・ ・</td><td></td></tr></table>	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S ・可とう形外装薄塗材S ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E	・ ・ ・ ・ ・	・砂壁状 ・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り) ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り) ・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材S ・外装厚塗材E ・内装厚塗材C ・内装厚塗材G ・内装厚塗材S ・内装厚塗材E ・内装厚塗材W	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・吸放湿性 ・耐湿性 ・吹放し ・凹凸状 ・ゆず肌状 ○凸部処理 ・凹凸状 ・上塗材 ・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない	○複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S ・複層塗材E ○複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・上塗材 ・耐候性 ※耐候形3種 ・溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・樹脂 ※アクリル系 ・外観 ※つやあり ・つやなし ・メリツ	・軽量骨材仕上塗材	・吹付け軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・ ・		8 ALCパネルの場合の下地処理 (15.6.4) 9 マスチック塗材塗り (15.7.2) 種類 ・A種 ・B種 10セッコウプラスター塗り (15.8.2) 材料 下塗り及び中塗りに用いるセッコウプラスター ・既調合プラスター ・現場調合プラスター 上塗り ・既調合プラスター (上塗り用) ・しっくい塗り (15.8.3)																																																																																																																		
種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																																																																							
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S ・可とう形外装薄塗材S ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E	・ ・ ・ ・ ・	・砂壁状 ・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り) ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り) ・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく																																																																																																																																							
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材S ・外装厚塗材E ・内装厚塗材C ・内装厚塗材G ・内装厚塗材S ・内装厚塗材E ・内装厚塗材W	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・吸放湿性 ・耐湿性 ・吹放し ・凹凸状 ・ゆず肌状 ○凸部処理 ・凹凸状 ・上塗材 ・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない																																																																																																																																							
○複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S ・複層塗材E ○複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・上塗材 ・耐候性 ※耐候形3種 ・溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・樹脂 ※アクリル系 ・外観 ※つやあり ・つやなし ・メリツ																																																																																																																																							
・軽量骨材仕上塗材	・吹付け軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・ ・																																																																																																																																								
		工 事 件 名 (そー2) 北部第2ポンプ場更新工事 工 事 場 所 甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場) 図 面 名 建築工事特記仕様書 5 縮 尺 — 分 割 A- 5/27 甲府市上下水道局 管理番号 R 6ーそー2 マイコNo.																																																																																																																																								

<div> <div> <div>15</div> <div>左官工事</div> <div> <div>《</div> <div>続</div> <div>き》</div> </div> </div> </div>	<div> <div>11</div> <div>しっくい塗り</div> </div>	<div> <div> <div>下地</div> <div>※木ずり、こまい土壁塗り、せっこうラスボード又はせっこうボード</div> </div> <div> <div>材料</div> <div>・現場調査材料 ・既調査材料（しっくい塗材の種類等：）</div> </div> <div> <div>調査及び塗厚</div> <div> <div>木づり下地</div> <div>※標準仕様書表15.10.1による</div> </div> <div> <div>こまい土壁下地</div> <div>※標準仕様書表15.10.2による</div> </div> </div> <div> <div>12</div> <div>こまい壁塗り</div> </div> </div>	<div> <div> <div>工法</div> <div>・土物仕上げ（・水かね土物1工法 ・水かね土物2工法 ・のりさし土物工法 ・のりかね土物工法）</div> </div> <div> <div>・砂壁仕上げ工法</div> <div>・切返し仕上げ工法</div> <div>・大津仕上げ（・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき工法）</div> </div> <div> <div>材料</div> <div>土壁用のりの種類 ※つものた 砂壁用のりの種類 ※ふのり 土色の種類 土物仕上げ（ ・大津仕上げ（</div> </div> <div> <div>調査</div> <div>下塗りの調査 ※標準仕様書表15.11.2による</div> </div> <div> <div>塗厚</div> <div>※標準仕様書表15.11.8による</div> </div> <div> <div>図示（建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合）</div> </div> <div> <div>工程</div> <div>こまい壁 ※A種 ・B種</div> </div> </div>	<div> <div> <div>19</div> <div>ステンレス製建具</div> </div> </div>	<div> <div>性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）</div> <div>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号は建具表による） ・適用しない</div> <div>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ・ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ・ ） ・耐震ドアとする場合 面内変形追従性の等級（ ・ ）</div> <div>鋼板 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 表面仕上げ ※H L ・鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</div> <div> <div>建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 ・ 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）</div> <div>・フラッシュ戸</div> <div>表面材の合板の種類</div> <table> <tr> <th>合板の種類</th><th>樹種・規格等</th><th>備 考</th></tr> <tr> <td>・普通合板[G]</td><td>表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77%合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr> <tr> <td>・天然木化粧合板[G]</td><td>樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板[G]</td><td>化粧加工の方法 （・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）</td><td></td></tr> </table> <div>表面板の厚さ ※表16.7.6による ・</div> <div>・かまち戸 かまち樹種（ ） 鋳板樹種（ ） 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・</div> <div>・ふすま 工法 上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装） 見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・</div> <div>・戸ふすま 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</div> <div>・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</div> <div>枠、くつずりの材料 ・建具表による ・</div> <div> <div>金物の種類・見え掛り部の材質等</div> <div>※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.2による ・ 樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.3による ・ 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ○建具表による ・ 錠前類 ○建具表による ・ クローザ類 ○建具表による ・</div> <div>マスターキー ○製作する ・製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 ・ 錠箱 ※有り ・無し</div> <div> <div>自動ドア開閉装置の性能値</div> <div>自動ドアの種類</div> <table> <tr> <th>性能</th><th>引き戸用検出装置の種類</th><th>凍結防止</th></tr> <tr> <td>・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2</td><td>※耐電圧、温度上昇、 耐久性（サイクル）は 標準仕様書表16.9.1に よる ・ ・ ・ ・</td><td>・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ</td></tr> </table> <div>多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置（表16.9.2） 開閉方法 ※片開き ・ 耐電圧、温度上昇、耐久性（サイクル）、防錆、電源 ※標準仕様書表16.9.2による ・耐電圧（ ）温度上昇（ ） 耐久性（ ）防錆（ ）電源（ ）</div> <div>引き戸用検出装置（表16.9.3） 放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源 ※標準仕様書表16.9.3による ・放射無線周波数電磁界耐性（ ）耐電圧（ ） 防錆（ ）防滴（ ）電源（ ）</div> <div>戸の開閉方式 ※図示</div> </div></div></div></div>	合板の種類	樹種・規格等	備 考	・普通合板[G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77%合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）		・天然木化粧合板[G]	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）		・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 （・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）		性能	引き戸用検出装置の種類	凍結防止	・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※耐電圧、温度上昇、 耐久性（サイクル）は 標準仕様書表16.9.1に よる ・ ・ ・ ・	・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ																											
合板の種類	樹種・規格等	備 考																																																
・普通合板[G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※77%合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）																																																	
・天然木化粧合板[G]	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）																																																	
・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 （・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）																																																	
性能	引き戸用検出装置の種類	凍結防止																																																
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※耐電圧、温度上昇、 耐久性（サイクル）は 標準仕様書表16.9.1に よる ・ ・ ・ ・	・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ																																																
<div> <div>10</div> <div>木製建具</div> </div>	<div> <div> <div>16</div> <div>木製建具</div> </div> </div>	<div> <div> <div>17</div> <div>カーテンウォール工事</div> </div> </div>	<div> <div> <div>18</div> <div>ガラス</div> </div> </div>	<div> <div> <div>19</div> <div>ガラスブロック</div> </div> </div>	<div> <div> <div>20</div> <div>軽量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>21</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>22</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>23</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>24</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>25</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>26</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>27</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>28</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>29</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>30</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>31</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>32</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>33</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>34</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>35</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>36</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>37</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>38</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>39</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>40</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>41</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>42</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>43</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>44</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>45</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>46</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>47</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>48</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>49</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>50</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>51</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>52</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>53</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>54</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>55</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>56</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>57</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>58</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>59</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>60</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>61</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>62</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>63</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>64</div> <div>重量シャッター</div> </div> </div>	<div> <div> <div>65</div> <div>重量</div></div></div>

17 カーテンウォール工事 《続き》	3 PCカーテンウォール	適用は以下によるほか、カーテンウォール図による (17.3.2～5) (表17.3.1) (表17.3.2) 材料 コンクリート 種類 () 品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm ² スランプ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295A 補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 ・ 先付けの材料 ・表面仕上材 ・セラミックタイル ・石材 (・花こう岩 ・大理石) ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール 形状及び仕上げ 製品の見え掛り部の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.3による ・上記以外 辺長 (mm) 対角線長の差 (mm) 板厚 (mm) 開口部内法寸法 (mm) ねじれ、そり (mm) 曲がり (mm) 面の凹凸 (mm) 先付け金物の位置 (mm) カーテンウォールの仕上げ 構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) 取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.2による	4 特殊機能床	(19.2.2) シート種別 ・帯電防止床シート ・帯電防止床タイル ・視覚障害者用床タイル ・耐動荷重性床シート ・防滑性床シート ・防滑性床タイル	5 ビニル幅木	(19.2.2) 材質 ・軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・70 ・100 厚さ (mm) ※1.5以上	6 ゴム床タイル	(19.2.2) 種類 () 色柄 () 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 (mm) ()	7 カーベツト敷き	(19.3.3) (19.3.4) (表19.3.1) (表19.3.2) ・織じゅうたん 種 別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備 考 ・A種 ・カットバイル ・ウルトカベツト ・無地 ・適用する ・B種 ・ループバイル ・ダブルカベツト ・柄物 ・適用しない ・C種 ・カット、ループ併用 ・7ねじりカベツト (標準品) 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・タフテツドカーベツト バイル形状 バイル長さ (mm) 工法 帯電性 備考 ・カットバイル ・ ※全面接着工法 ・適用する ・ループバイル ・ ・グリッパ一工法 ・適用しない ・レベーループバイル ・ ・カット、ループ併用 ・ 下敷き材 (グリッパ一工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm ・ニードルパンチカーベツト 厚さ (mm) () 帯電性 ・適用する ・適用しない 備考 () ・タイルカーベツト バイル形状 種類 施工箇所 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備考 ※ループバイル ※第一種 ・ ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ ・カットバイル ・第一種 ・ ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ ・カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・ タイルカーベツトの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・ 階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・ 見切り、押え金物 ・適用する (材質、形状等 ※図示 ・) ・適用しない	9 畳敷き	(19.6.2) (表19.6.1) 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書表12.6.1による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロア型) 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとす。	10 せっこうボード、 その他ボード及び 合板張り	(19.7.2) (19.7.3) (表19.7.1) 種 類 JIS記号 厚さ (mm) 、規格等 ・硬質木毛セメント板 Ⅱ HW ・15 ・20 ・25 ・ ・中質木毛セメント板 Ⅲ MW ・15 ・20 ・25 ・ ・普通木毛セメント板 Ⅳ NW ・15 ・20 ・25 ・ ・硬質木片セメント板 Ⅴ HF ・12 ・15 ・18 ・21 ・ ・普通木片セメント板 Ⅵ NF ・30 ・ ・けい酸カルシウム板 Ⅶ Ⅱ 2 (無石棉) ・6 ・8 ・ロックウール化粧吸音板 DR ・フラツトタイプ (・9 (不燃) ・12 (不燃) ・ ・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 (不燃) ・) ・ロックウール吸音ボード Ⅰ号 RW-B ・25 ・ ・グラスウール吸音ボード 32K GW-B ・25 (ガラスウール包) ・ ・せっこうボード GB-R ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・ ・不燃積層せっこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧紙 (下地張り用) 化粧紙有 (トランシム模様) ・シージーせっこうボード GB-S 12.5 (不燃) 幅440mm程度 ・強化せっこうボード GB-F ・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・せっこうボード GB-L 9.5 ・化粧せっこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (・経目 ・板目) 専用下地材有り ・化粧せっこうボード (トランシム模様) GB-D 9.5 (準不燃) ・普通合板 Ⅲ 表面の材種 生地、透明塗料塗り (※9の程度 ・) 不透明塗料塗り (※10の程度 ・) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 () ・防虫処理 ・天然木化粧合板 Ⅲ 樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ (mm) () ・防虫処理 ・特殊加工化粧合板 Ⅲ 化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 () タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ (mm) () ・防虫処理 ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903 による厚さ (※1.2 ・) ・メラミン樹脂化粧板 ・メラミン樹脂化粧板 MDF ・3 ・7 ・9 ・12 ・ ・ハードボード (素地) Ⅲ HB ・無研磨板 (・スリツトボード ・パネル) ・研磨板 (・スリツトボード ・パネル) ・内装用 ・外装用 2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・インジュンボード Ⅲ IB A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 せっこうボード等の下地 ※図示 ・ 遮音シール材 ・適用する (・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド) ・適用しない 合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 合板類の張付け ※B種 ・A種 せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による	11 壁紙張り	(19.5.2) (19.5.3) ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 壁紙の種類 施工箇所 紙 繊維 プラスチック 無機質 その他 防火種別 備考 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃 ・準不燃 ・難燃 ・ モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.4) コンクリート及びALC面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.5) せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.7)	12 断熱材 Ⅲ (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・
	18 塗装工事	① 材料 (18.1.3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ ・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・次の箇所を除き防火材料とする (箇所:) (18.2.2～7) (表18.2.1～7) 種 別 下地面等 木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種 ・B種 透明塗りの場合 ※B種 ・A種 鉄鋼面 ※C種 ・A種 ・B種 亜鉛めっき鋼面 ・A種 ・B種 モルタル面及びプラスター面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP以外) 及び A L C パネル面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP) 及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 せっこうボード面及び目地: 経目処理工法 ※A種 ・B種 その他ボード面 目地: 経目処理工法以外 ※B種 ・A種 ③ 錆止め塗料塗り (18.3.2) (18.3.3) (表18.3.1～4) 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え掛り部分 ※A種 ・B種 下記以外の場合 見え隠れ部分 ※B種 ・A種 ※A種 ・B種 EP-Gの場合 ・A種 ・B種 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具 ※A種 ・B種 ※A種 ・B種 ・C種 鋼製建具以外 ※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ・C種 EP-Gの場合 ※C種 ・A種 ・B種 ④ 塗装 (18.4.1～13.2) (表18.4.1～13.1) 塗 装 種 別 塗料の種類 ○合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 木部屋外 ※A種 ・B種 ※1種 ・2種 木部屋内 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 鉄鋼面 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 亜鉛めっき鋼面 — ※1種 ・2種 ・クリヤラッカー塗り (CL) ※B種 ・A種 — ・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD) ※B種 ・A種 — ○耐水性塗料塗り (WP) 鉄鋼面 — 上塗り等級 () 級 亜鉛めっき鋼面 — 上塗り等級 () 級 コンクリート面及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 ・C種 — コンクリート面等 ※B種 ・A種 — ○つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G) 屋内の鉄鋼面 ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T) ※B種 ・A種 — ・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ※B種 ・A種 — ・オイルステイン塗り (OS) — ・ ・木材保護塗料塗り (WP) 屋外 ※B種 ・A種 — 高日射反射率塗料 Ⅲ の適用 ※適用する ・適用しない 適用箇所 ※屋上、屋上面の金属面 ・	② 素地ごしらえ (18.2.2～7) (表18.2.1～7) 種 別 下地面等 木部 不透明塗料塗りの場合 ※A種 ・B種 透明塗りの場合 ※B種 ・A種 鉄鋼面 ※C種 ・A種 ・B種 亜鉛めっき鋼面 ・A種 ・B種 モルタル面及びプラスター面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP以外) 及び A L C パネル面 ※B種 ・A種 コンクリート面 (DP) 及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 せっこうボード面及び目地: 経目処理工法 ※A種 ・B種 その他ボード面 目地: 経目処理工法以外 ※B種 ・A種 ③ 錆止め塗料塗り (18.3.2) (18.3.3) (表18.3.1～4) 下地面等 工程の種類 塗料の種類 鉄鋼面 見え掛り部分 ※A種 ・B種 下記以外の場合 見え隠れ部分 ※B種 ・A種 ※A種 ・B種 EP-Gの場合 ・A種 ・B種 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具 ※A種 ・B種 ※A種 ・B種 ・C種 鋼製建具以外 ※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ・C種 EP-Gの場合 ※C種 ・A種 ・B種 ④ 塗装 (18.4.1～13.2) (表18.4.1～13.1) 塗 装 種 別 塗料の種類 ○合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) 木部屋外 ※A種 ・B種 ※1種 ・2種 木部屋内 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 鉄鋼面 ※B種 ・A種 ※1種 ・2種 亜鉛めっき鋼面 — ※1種 ・2種 ・クリヤラッカー塗り (CL) ※B種 ・A種 — ・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD) ※B種 ・A種 — ○耐水性塗料塗り (WP) 鉄鋼面 — 上塗り等級 () 級 亜鉛めっき鋼面 — 上塗り等級 () 級 コンクリート面及び押出成形セメント板面 ・A種 ・B種 ・C種 — コンクリート面等 ※B種 ・A種 — ○つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G) 屋内の鉄鋼面 ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) ※B種 ・A種 — ・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T) ※B種 ・A種 — ・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ※B種 ・A種 — ・オイルステイン塗り (OS) — ・ ・木材保護塗料塗り (WP) 屋外 ※B種 ・A種 — 高日射反射率塗料 Ⅲ の適用 ※適用する ・適用しない 適用箇所 ※屋上、屋上面の金属面 ・	⑦ 合成樹脂塗床 (19.4.2) (19.4.3) (表19.4.1～8) 種 類 施工箇所 工 法 仕上げの種類 ○厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床材) 搬出入室階段・廊下 ※平滑仕上げ ○厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂塗床材) 電気室・次亜室 ・薄膜流しのペエ工法 ※平滑仕上げ ・薄膜流しのペエ工法 ・防滑仕上げ ・樹脂モルタル工法 ・厚膜型塗床材 ※平滑仕上げ ・ウレタン樹脂塗床材 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り) 工程 塗布量 (kg/m ²) 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色 ・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色 ・ 合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 単層フローリング Ⅲ 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ 仕上塗装 間伐材等の適用 ・フローリングボード1等 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ※標準仕様書19.5.11による ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ※なら ※標準仕様書19.5.11による ・ ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.11による ・塗装品 ・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※標準仕様書19.5.11による ・塗装品 ・無塗装品 複合フローリング Ⅲ 種 類 工 法 樹種 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用 ※天然木化粧 ・釘留め工法 (根太張り) ※なら ・A種 ・適用する ・塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・B種 ・適用しない ・無塗装品 ・接着工法 ・C種 フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地そのままワックス塗り ・行わない	11 壁紙張り	(19.5.2) (19.5.3) ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 壁紙の種類 施工箇所 紙 繊維 プラスチック 無機質 その他 防火種別 備考 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃 ・準不燃 ・難燃 ・ モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.4) コンクリート及びALC面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.5) せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 (表18.2.7)	12 断熱材 Ⅲ (19.9.2) (19.9.3) ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ ・断熱材打込み工法 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 ・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ ○押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ○25+ ○電気室、次亜室 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・フェノールフォーム断熱材 ・ ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1又はA種1H ・ 厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ・図示 ・										
	19 内装工事	1 接着剤 (19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 (1-8 環境への配慮 (2) による) ・ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合 ・図示 2 ビニル床シート Ⅲ (19.2.2) (19.2.3) 種類の記号 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・無地 ・マーブル柄 ・柄物 目地処理する場合の工法 ・熱溶接工法 ・ 3 ビニル床タイル Ⅲ (19.2.2) 種類の記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・無地 ・300×300 ※2.0 ・TT (単層ビニル床タイル) ・柄物 ・450×450 ・2.5 ・FT (複層ビニル床タイル) ・500×500 ・3.0 ・FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	工 事 件 名 (そー2) 北部第2ポンプ場更新工事 工 事 場 所 甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場) 図 面 名 建築工事特記仕様書7 縮 尺 — 分 割 A- 7/27 甲府市上下水道局 管理番号 R 6 ー そー 2 マイコNo. — — — — —														

配置図 S=1:150



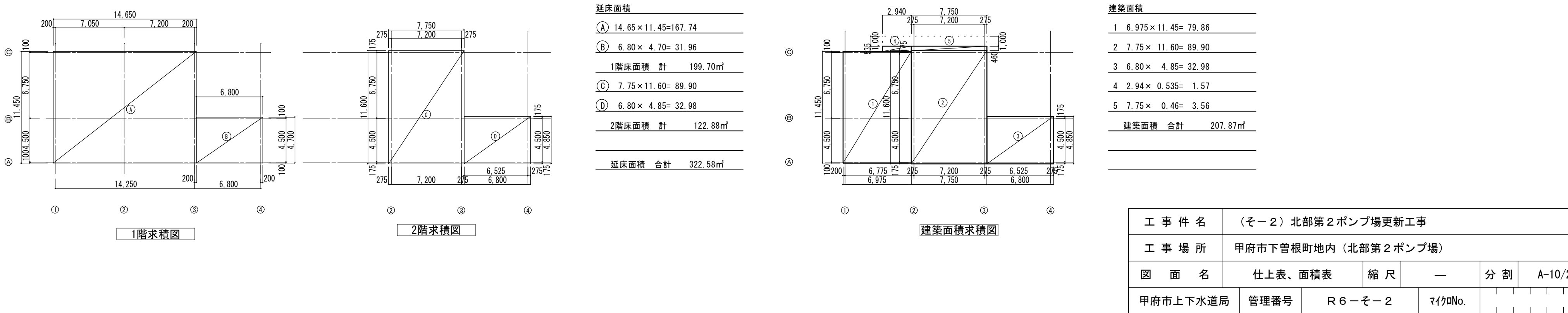
・基準法第56条に適合

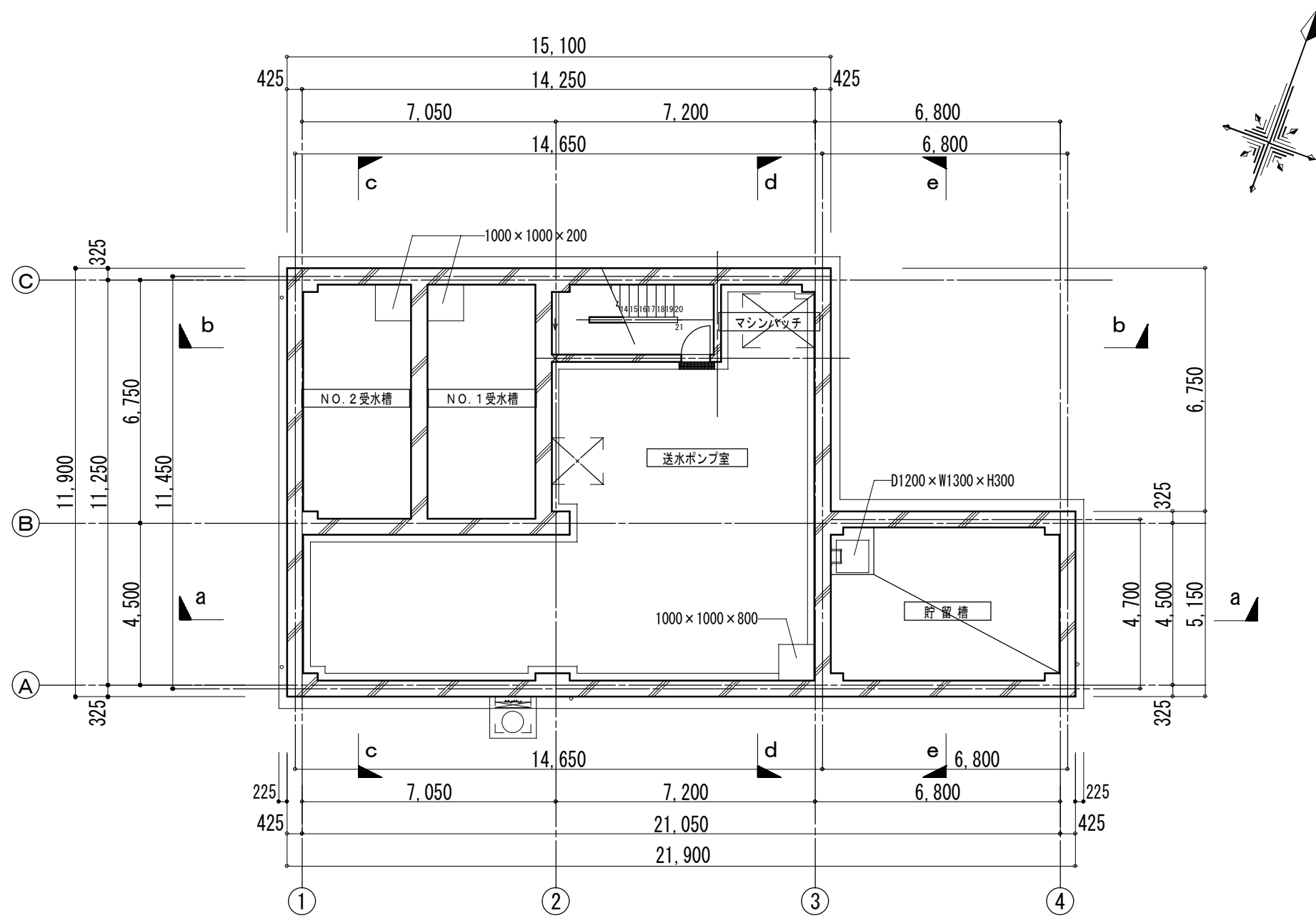
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	建築工事 配置図	縮 尺	1 : 150	分 割	A- 9/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	7474No.			

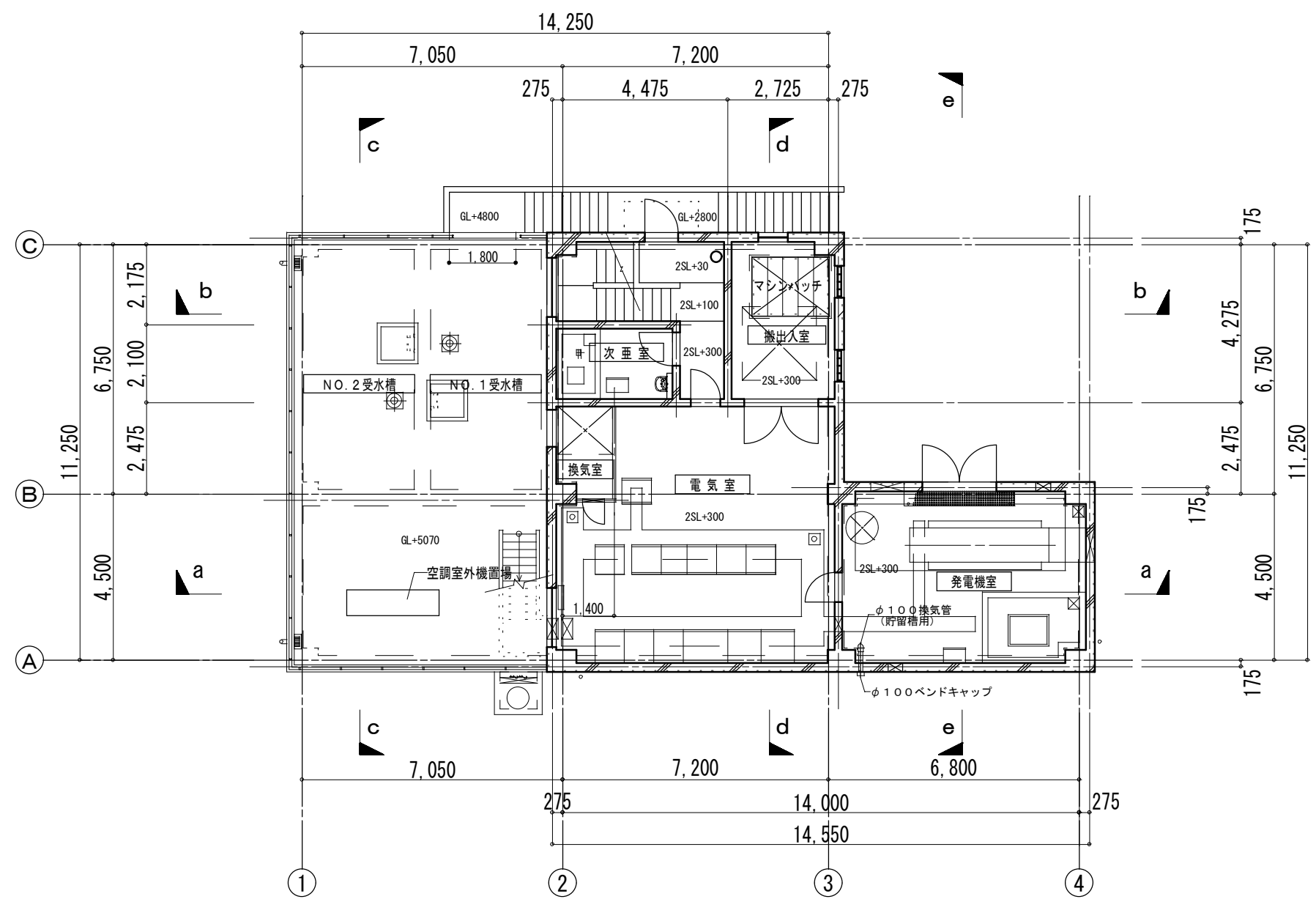
外部仕上表					
屋上・水槽上部	水勾配用モルタル塗りの上、塩ビシート防水(高耐久)接着工法：S-F2 高反射塗料塗り			玄関入口 庇	
外 壁	コンクリート打放し(B)の上、複層塗材(RE) <2-01-12> 地下部：超速硬化型ウレタン防水			天端・鼻先・ケラバ	天端：直均しの上、ウレタン系塗膜防水(X-2) 鼻先・ケラバ：打放し(B)の上、ウレタン系塗膜防水(X-2)、
巾木・外壁(水槽部)	コンクリート打放し(B)の上、水性高耐候性フッ素樹脂クリアー塗り・ボーダー部(斜線)H=500：複層塗材(RE)			軒天	コンクリート打放(B)の上、複層塗材(RE)
誘発・打継目地	PU-2 <2-02-9>・PU-2 <2-02-8>	誘発・打継目地 (水槽部分)	PU-2 <2-02-9>・PU-2 <2-02-8>	外階段	
				床・巾木	段部：モルタル金ごて厚30、排水溝(W50)：コンクリート直均しのまま、巾木(H=100)：打放し(B)仕上 ノンスリップ：ノンスリップタイル
パラペット	アルミ製笠木、W=250 <5-03-2>			手摺	壁：コンクリート打放(B)の上、複層塗材(RE)、天端：コンクリート直均しの上、複層塗材(RE)
堅 樋	カラーVP管 100A			マシン搬入口	ステンレス製ハッチ(既製品) 2000×2000
鉄骨階段	溶融亜鉛メッキ製	手摺(水槽上部)	アルミ製 H1100 アンカー方式	窓、出入口等 建具	アルミサッシ・スチールドア・ガラスブロック、防水扉

階	室 名	床	巾 木	高さ	壁			柱型	天 井	梁型	備 考
			仕 上 げ		下地	腰	壁		仕 上 げ		
1 階	受水槽	無筋コンクリート(H=200～0)直均しの上【C】 ポリウレア防食材塗り【C】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】		FRP蓋【C】、タラップ【C】 釜場：1000角・H=200
	貯留槽	無筋コンクリート(H=200～0)直均しの上【C】 ポリウレア防食材塗り【C】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 防食材塗り【C】	同 左	マンホール(900φ)【C】、タラップ【C】 釜場：1000角・H=300
	送水ポンプ室	無筋コンクリート(H=200)直均しの上【C】 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)【P】			R C		コンクリート打放し(B)の上、 結露防止塗料塗り	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	ポンプ基礎【C】、鋼製グレーチング(T-2)枠共 排水ピット：1000角・H=800
2 階	搬出入室	コンクリート直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	マシンハッチ：スチール製(綿鋼板)、防水、T-2 1500×2000 天井吊りフック：1t
	電気室	無筋コンクリート(H=300)直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)・帯電防止塗料	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		複合板(PFt=25+GB-Rt=12.5)張りの上、EP-G 一部LGS下地の上、複合板(PFt=25+GB-Rt=12.5)張、EP-G 2通下部・3通一部：コンクリート打放(B)の上、EP-G	同 左	複合板(PFt=25+GB-Rt=12.5)張りの上、 EP-G	同 左	ビット・ビット蓋(綿鋼板)枠共
	発電機室	無筋コンクリート(H=300)直均しの上、【P】 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)【P】	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り【P】	300	R C		コンクリート打放し(B)の上、 グラスウールG0張り t=50	同 左	コンクリート打放し(B)の上、 グラスウールG0張り t=50	同 左	マンホール(900φ)【C】、鋼製グレーチング(T-2)枠共：排水溝、排水目皿 機械基礎、防油堤【P】
	換気室	無筋コンクリート(H=300)直均し仕上			R C L G S		コンクリート打放し(B)仕上 一部LGS下地の上、GB-R張	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	転落防止用・ステンレス製手摺 32φ：FL+700、1400 2本
	次亜室	無筋コンクリート(H=300)直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り・耐薬品性塗料	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		複合板(PFt=25+0.8FKt=6)張りの上、EP-G 2通下部：コンクリート打放(B)の上、EP-G		複合板(PFt=25+0.8FKt=6)張りのまま	同 左	機械基礎、防液提 多目的流し【AM】、ライニング<6-28-3>
	階段	段部・踊場：コンクリート直均しの上、 下部：無筋コンクリート(H=200)直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	ノンスリップ：ステンレス製 W=50、手摺：樹脂製 34φ 排水目皿
	廊下	無筋コンクリート(H=300)直均しの上、 合成樹脂塗床材塗り(側溝内共)	コンクリート打放し(B)の上、 合成樹脂塗床材塗り	300	R C		コンクリート打放し(B)仕上	同 左	コンクリート打放し(B)仕上	同 左	
略号	GB-R：せっこうボード PF：ポリスチレンフォーム 【C】土工事 <○-○-○>公共建築工事標準図 O. 8FK：けい酸カルシウム板 EP-G：つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り 【P】プラント工事										

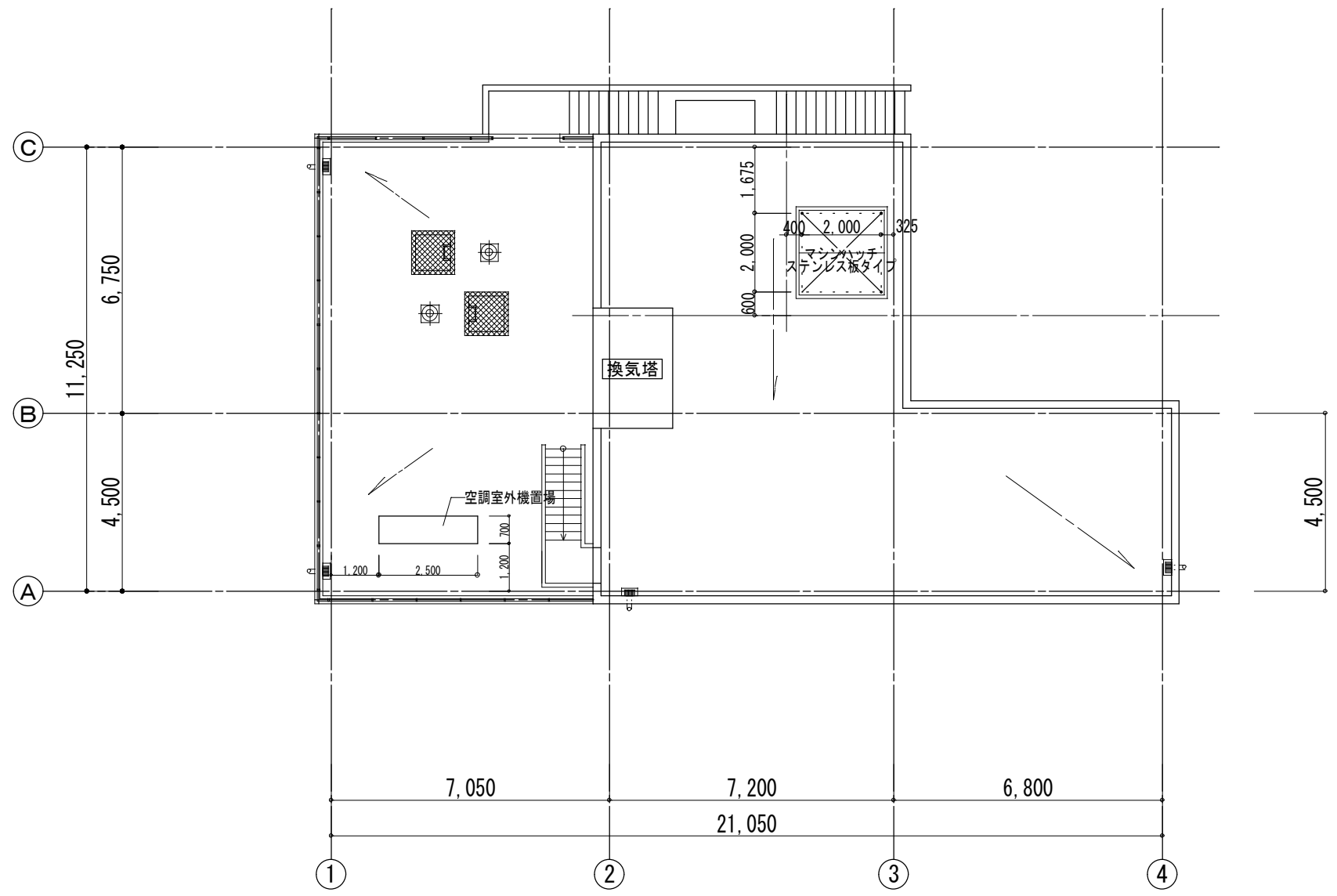




1階平面図 S=1:150



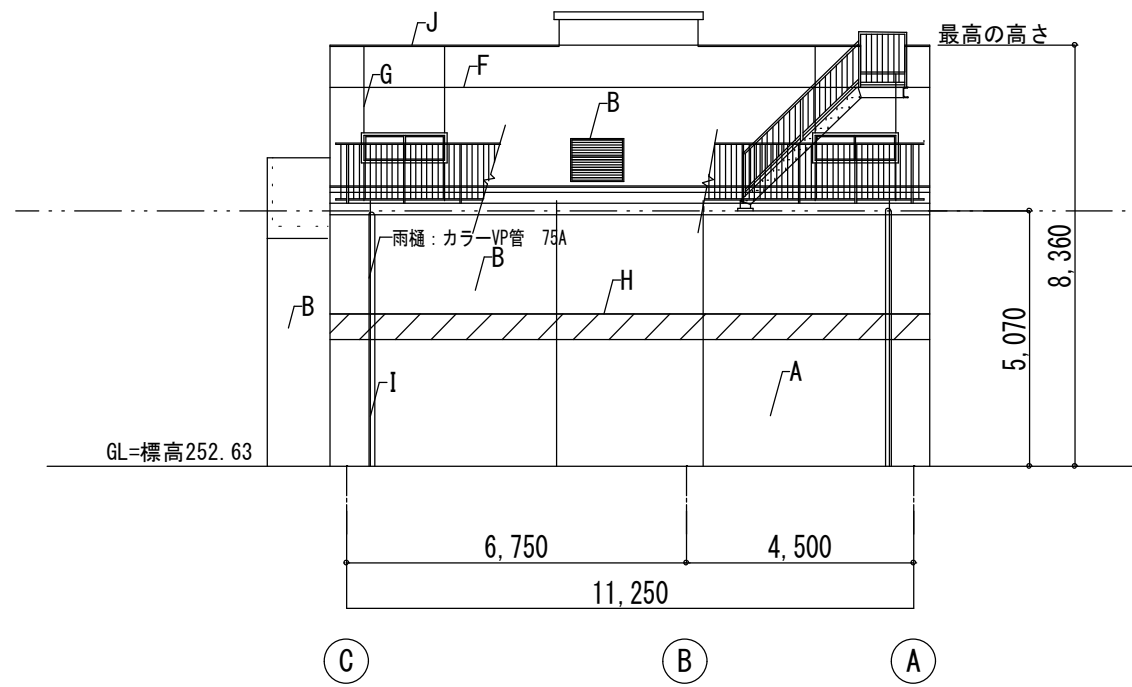
2階平面図 S=1:150



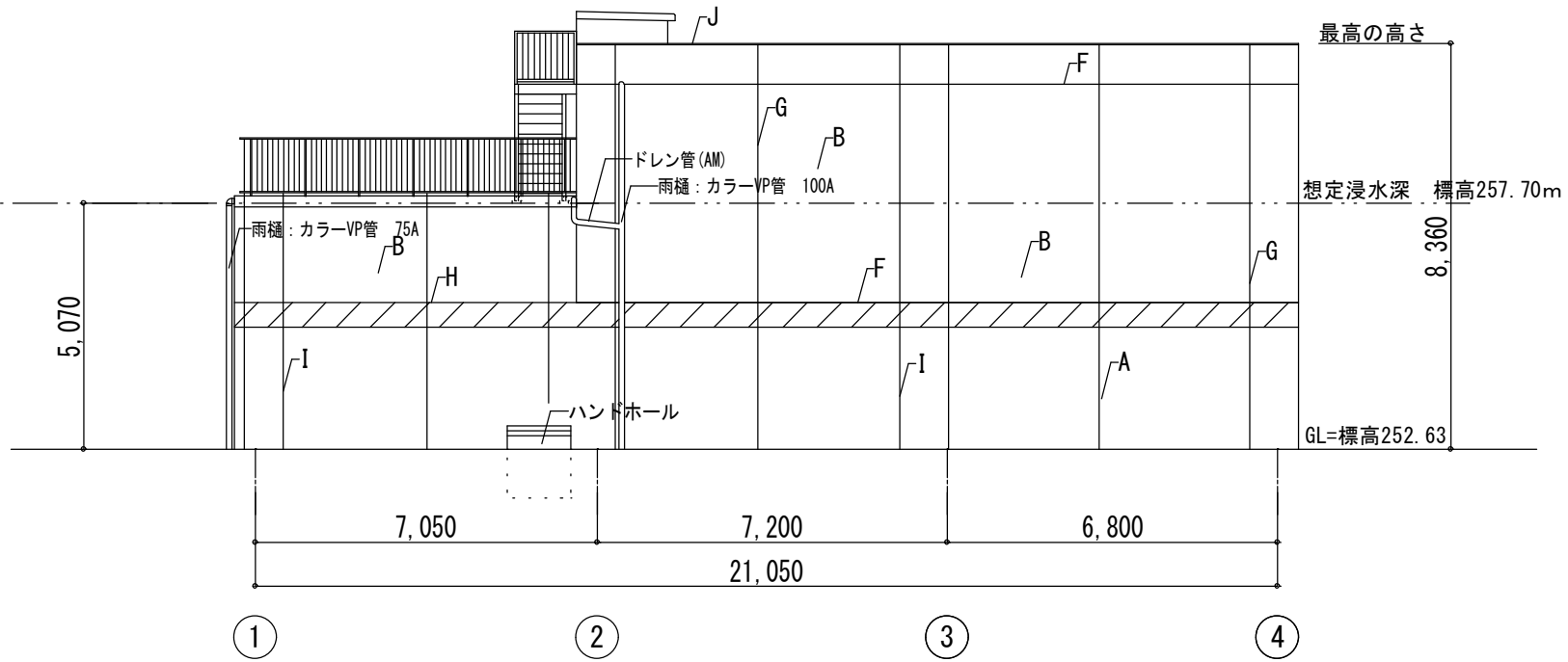
屋根伏図 S=1:150

A 2 ⇒ A 3 版

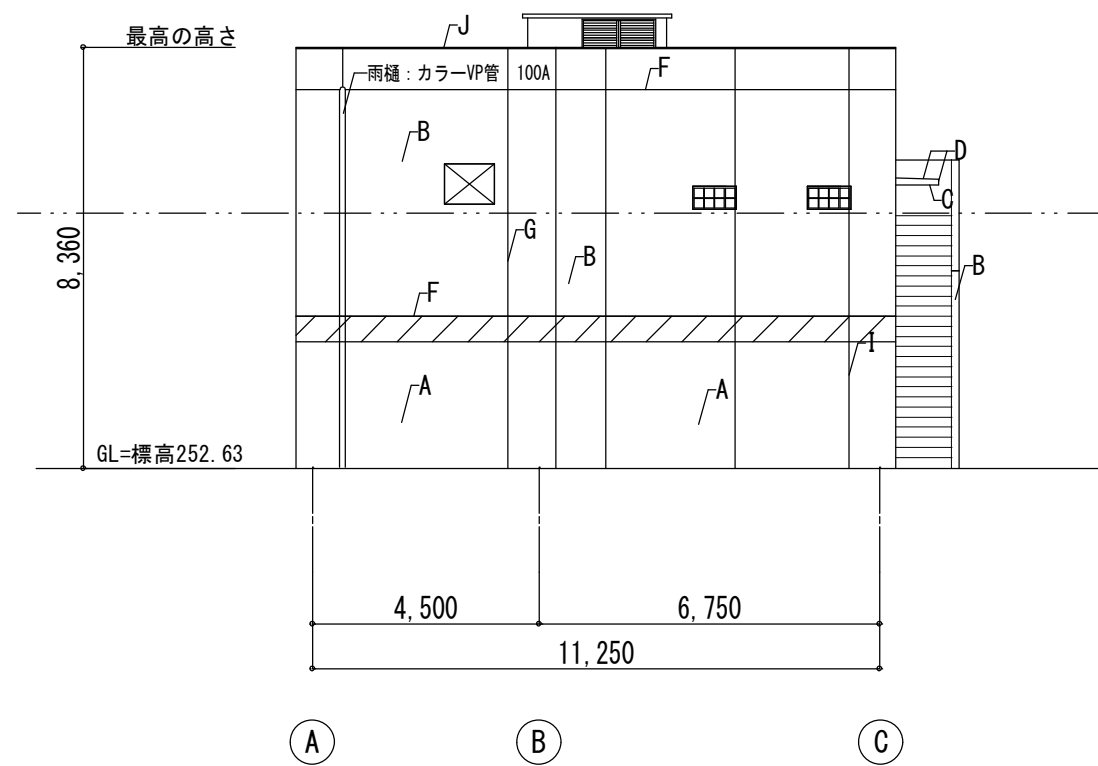
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	平 面 図	縮 尺	1 : 150	分 割	A-11/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マ/知No.			



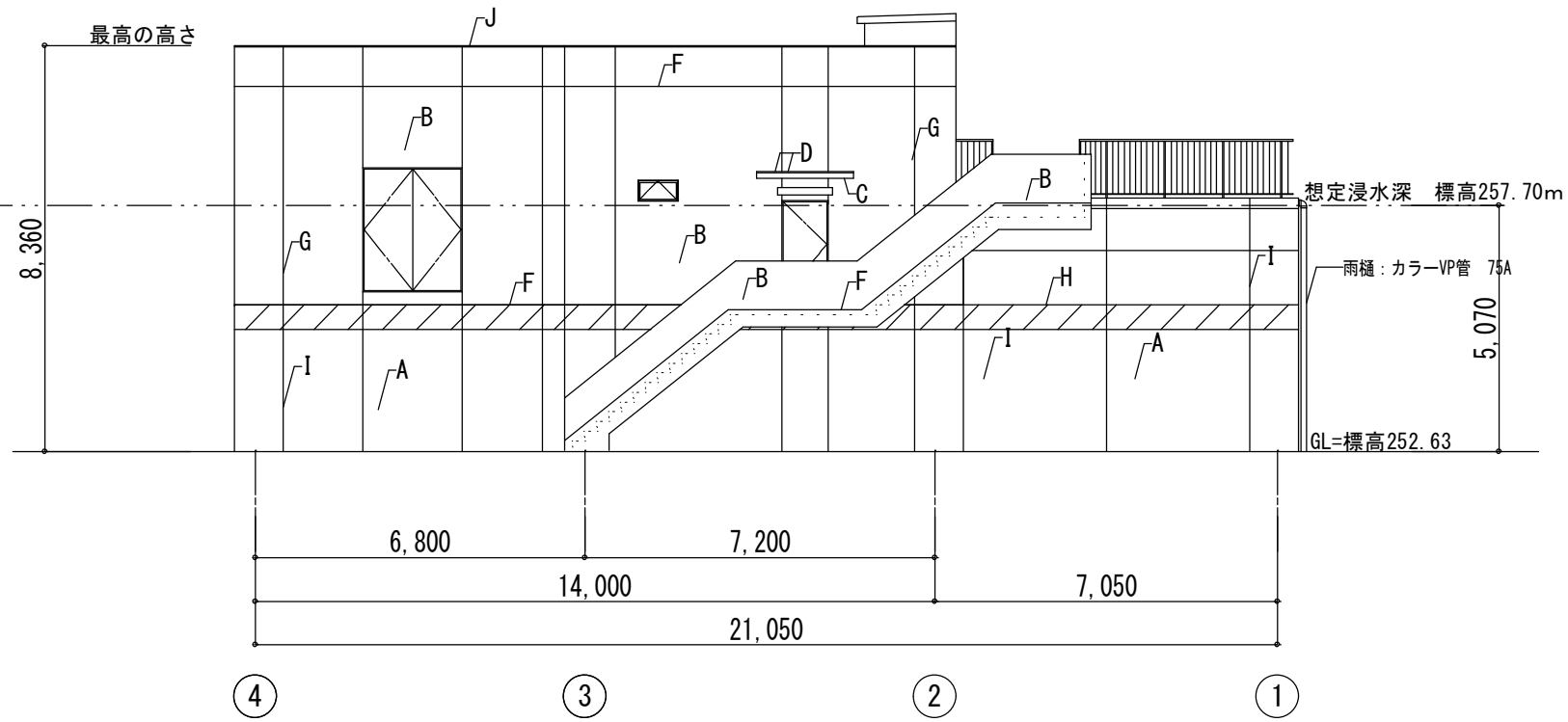
西 立面図 S=1:150



南 立面図 S=1:150



東 立面図 S=1:150



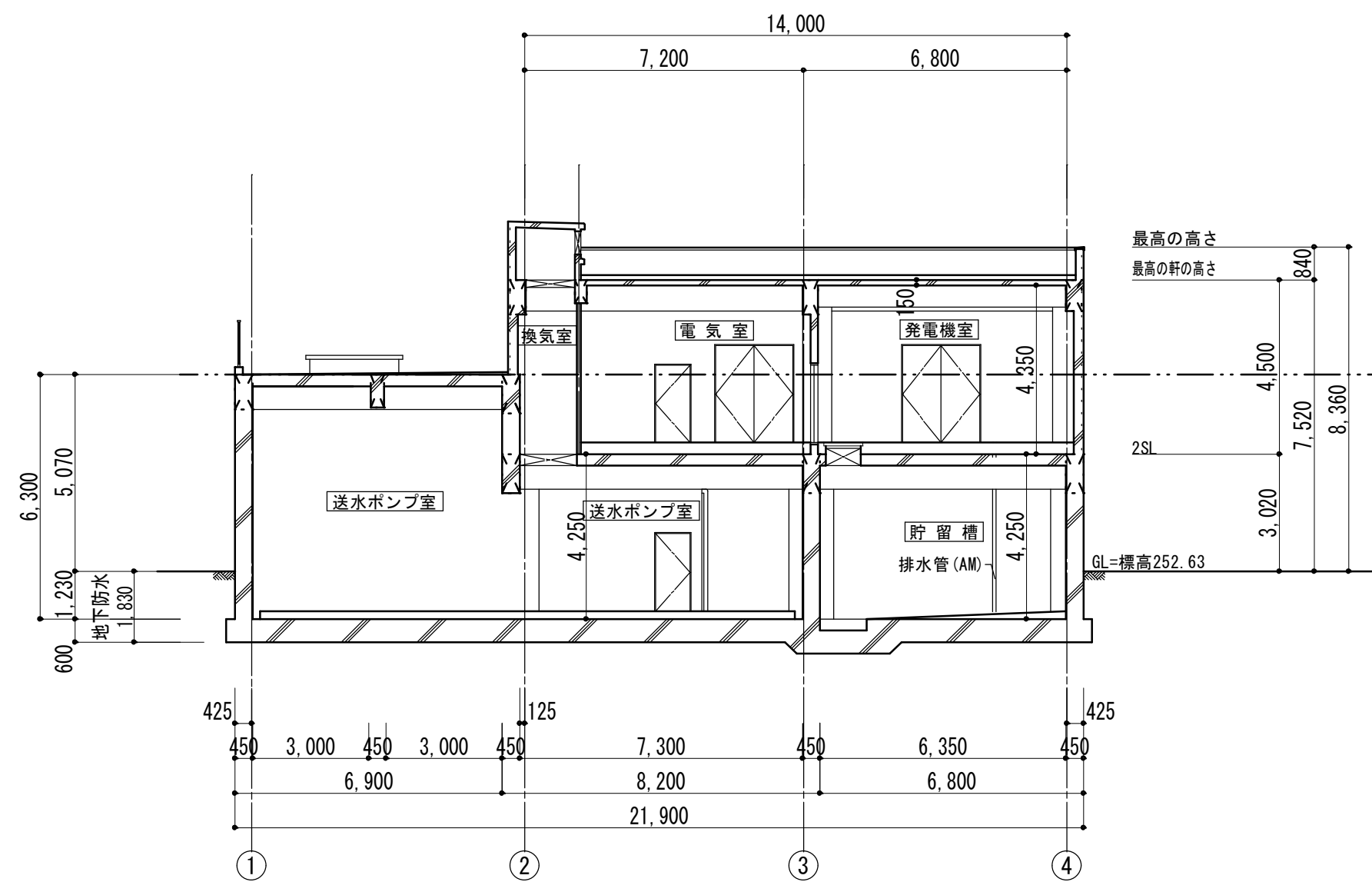
北 立面図 S=1:150

外部仕上表

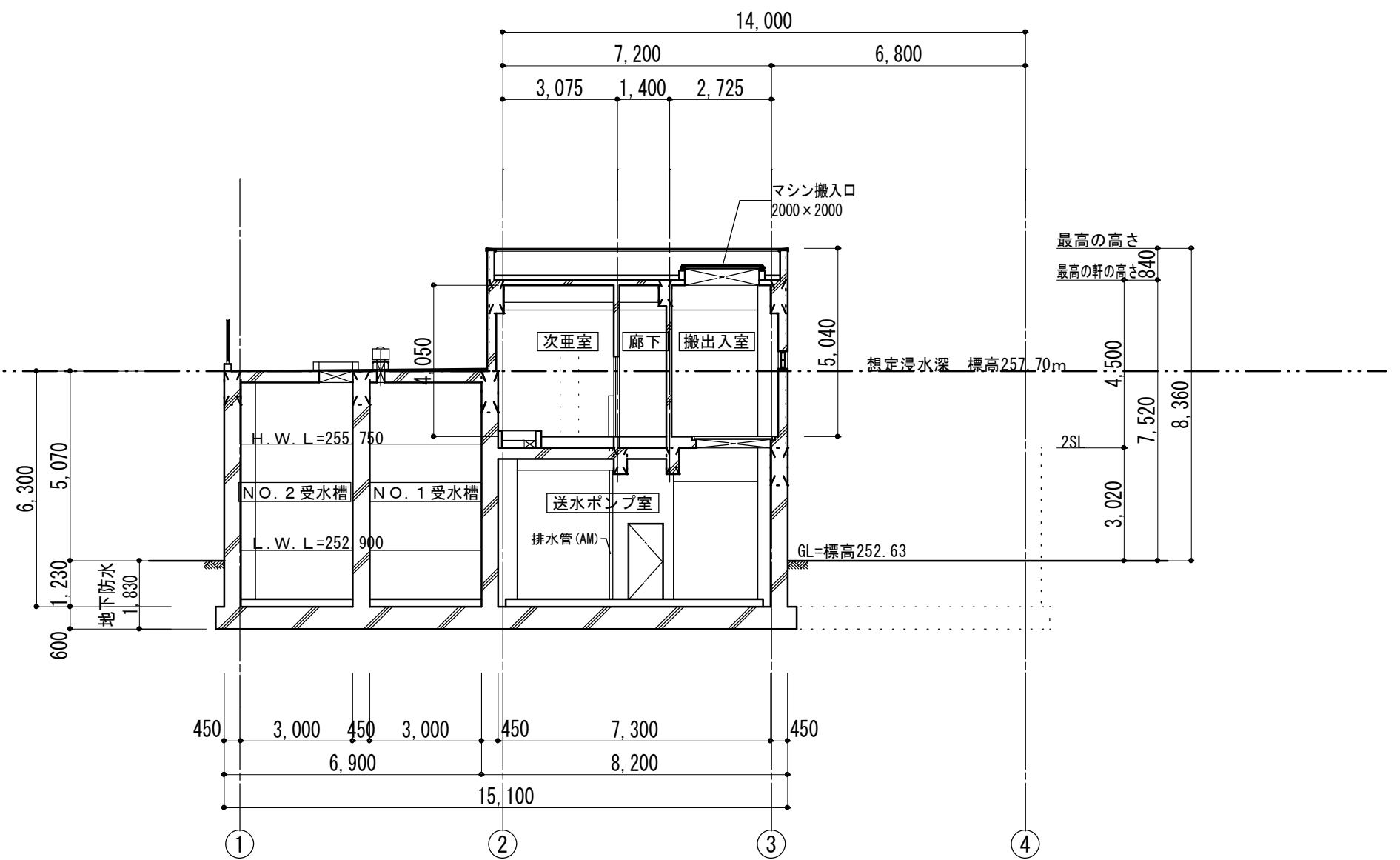
A	巾木、外壁(水槽階部分)	コンクリート打放し(B)の上、水性高耐候性フッ素樹脂クリアー塗り・ボーダー部(斜線)H=500: 複層仕上塗材RE
B	外壁(2階部分)	コンクリート打放し(B)の上、複層仕上塗材RE
C	軒天	コンクリート打放し(B)の上、複層仕上塗材RE
D	庇	鼻先: 打放し(B)の上、ウレタン系塗膜防水(X-2)、天端: 直均しの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)
E	屋根・水槽上部	塩ビシート防水(高耐久)接着工法 高反射塗料塗り
F	目地	打継目地[2-02-8]PU-2
G	目地	ひび割れ誘発目地[2-02-9]PU-2
H	目地(水槽部分)	打継目地[2-02-8]PU-2
I	目地(水槽部分)	ひび割れ誘発目地[2-02-9]PU-2
J	笠木	アルミ製笠木

A 2 ⇒ A 3 版

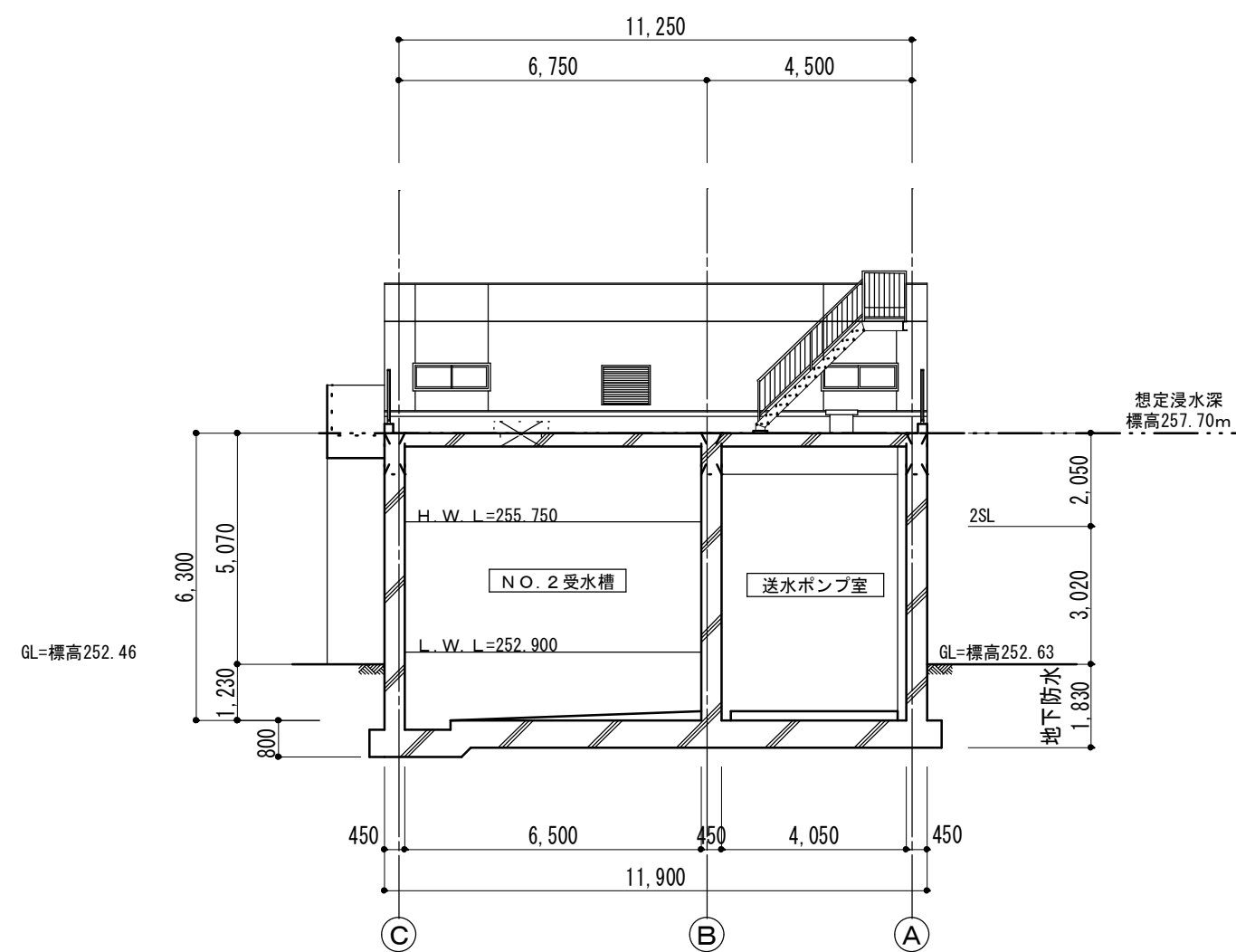
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	仕上表、立面図	縮 尺	1 : 150	分 割	A-12/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			



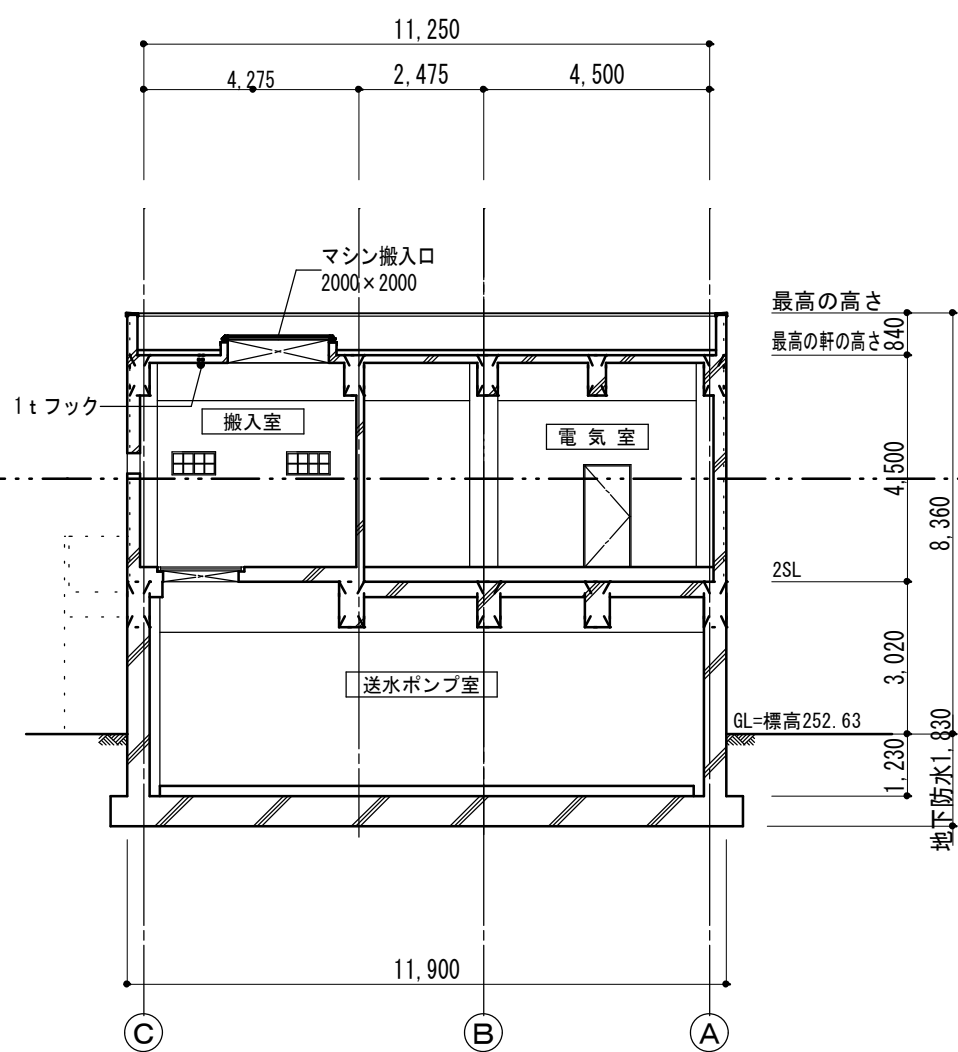
a-a断面図 S=1:150



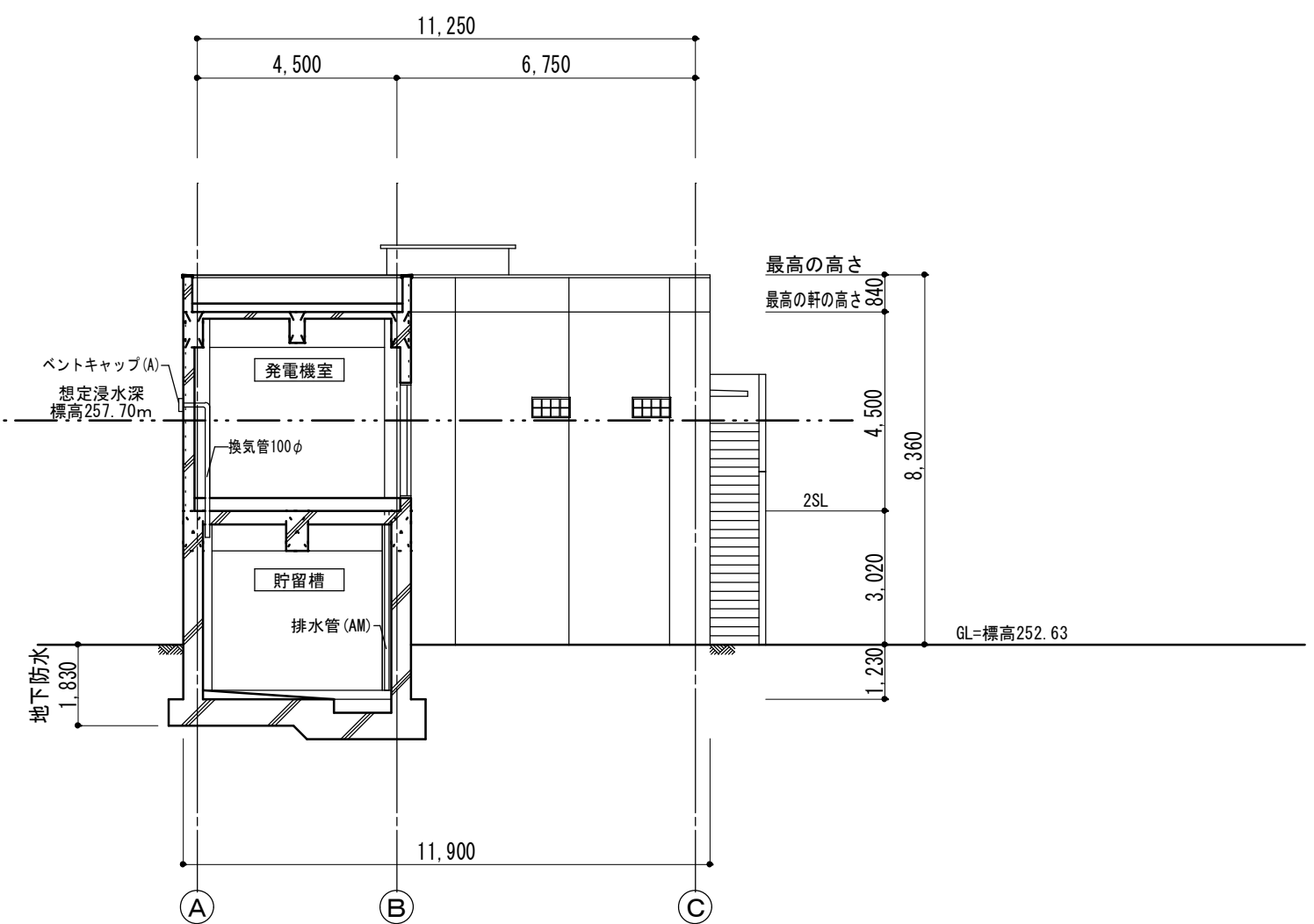
b-b断面図 S=1:150



c-c断面図 S=1:150



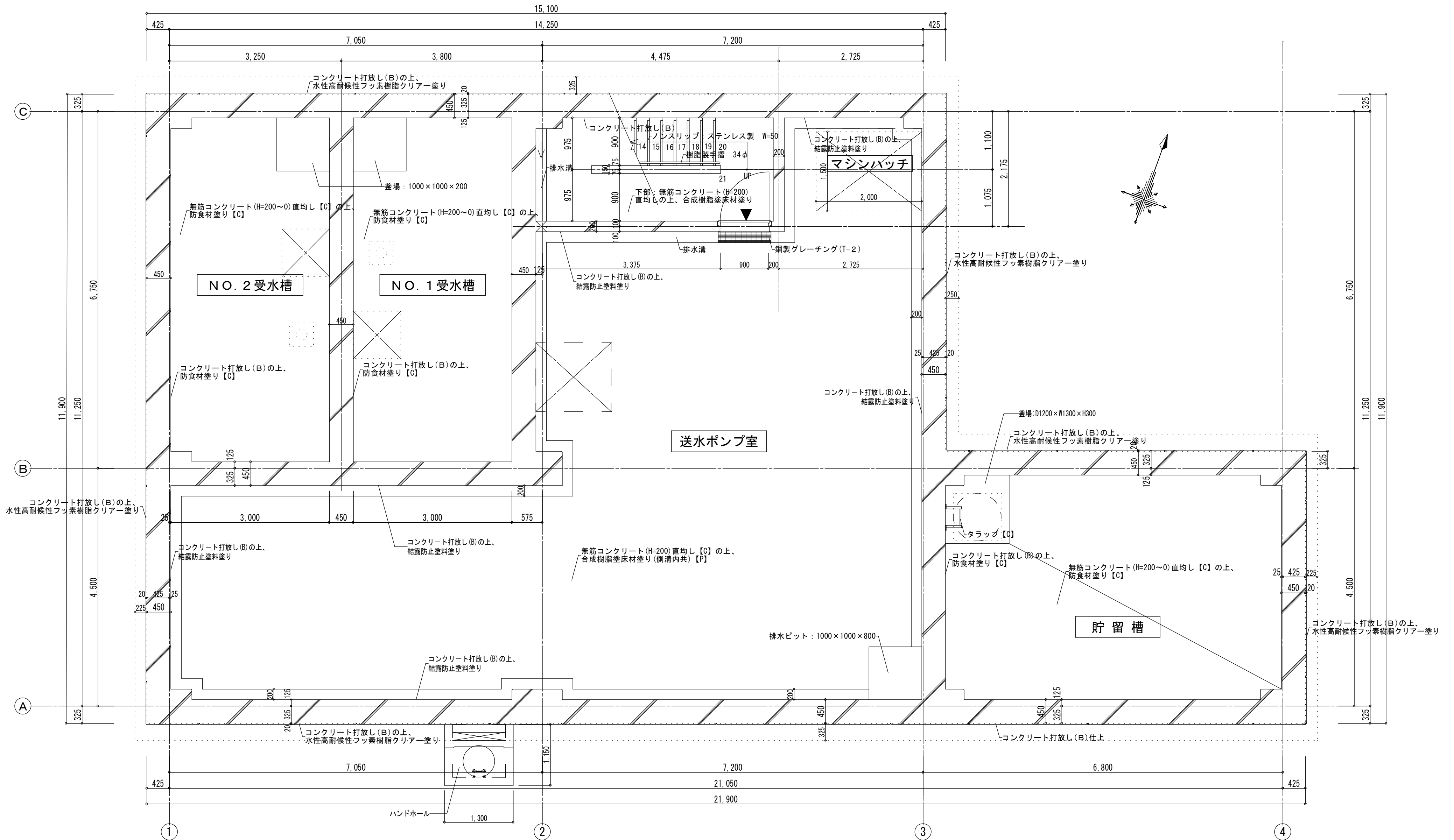
d-d断面図 S=1:150



e-e断面図 S=1:150

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	断 面 図	縮 尺	1 : 150	分 割	A-13/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マシナNo.			

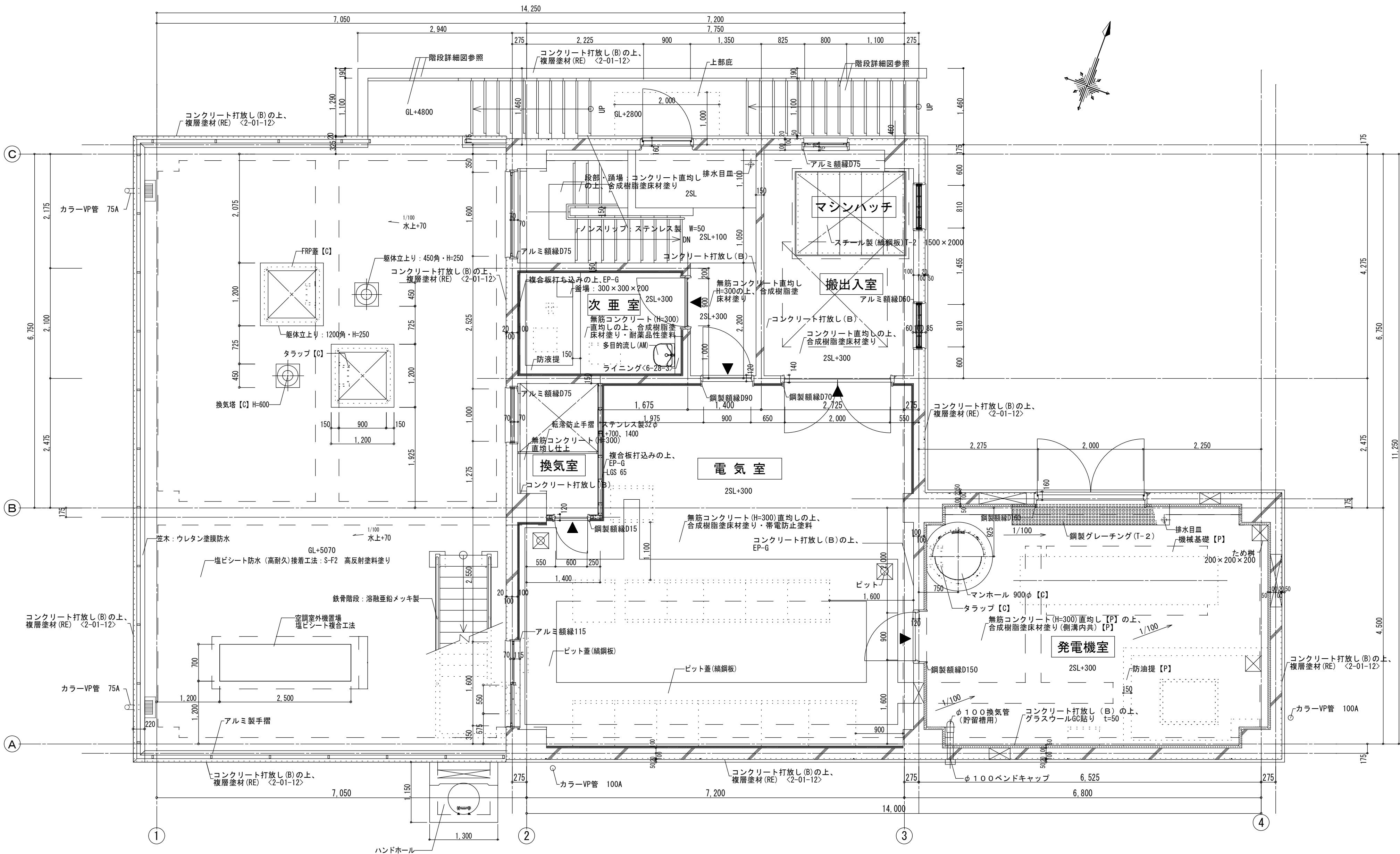


1階平面詳細図 S=1:50

▶ 室名札 : <8-43-1>300×60

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名		1階平面詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-14/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			

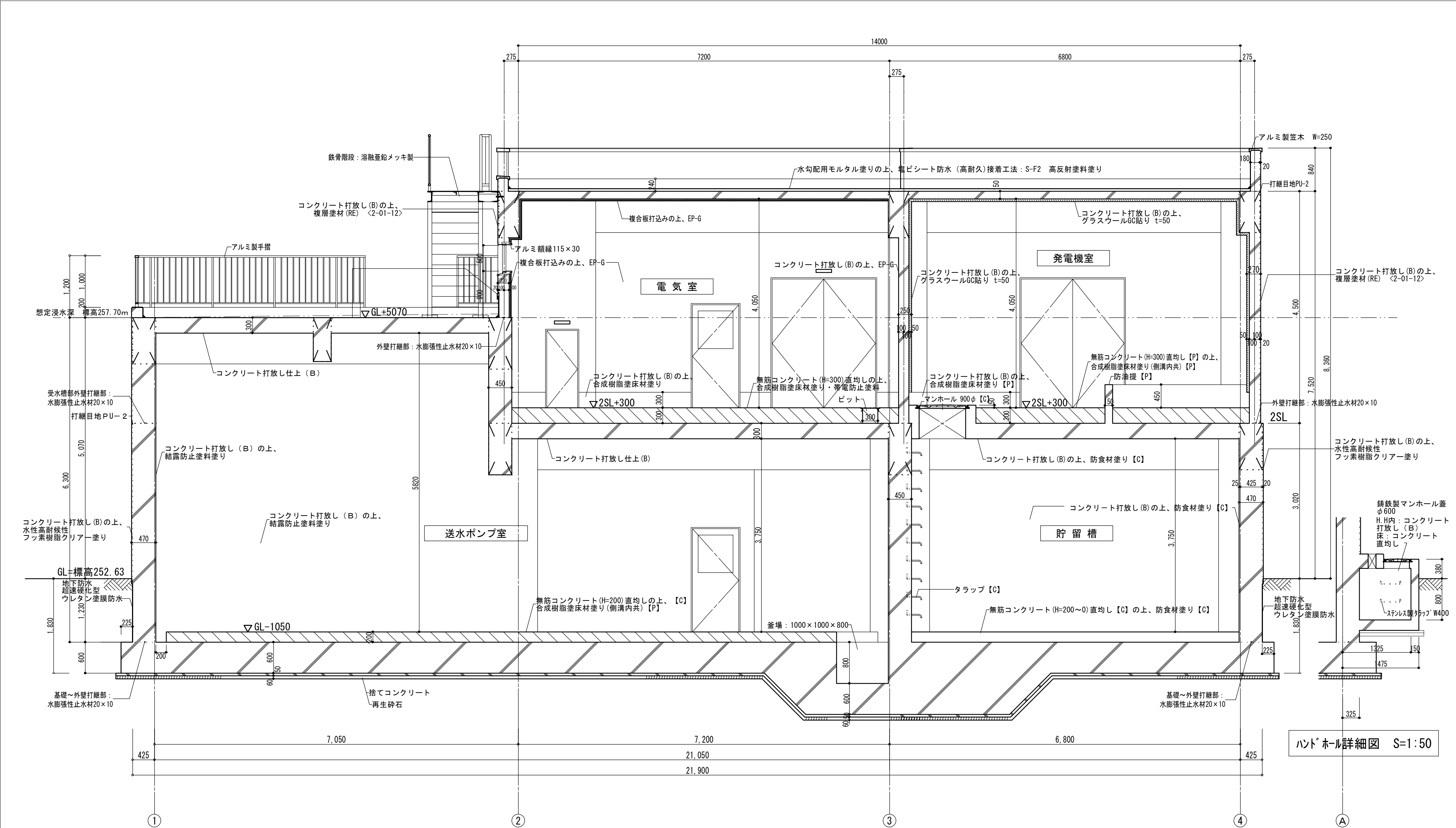


2 階平面詳細図 S=1:50

室名札 : <8-43-1>300×60

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	2階平面詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-15/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			



矩計図 S=1:50

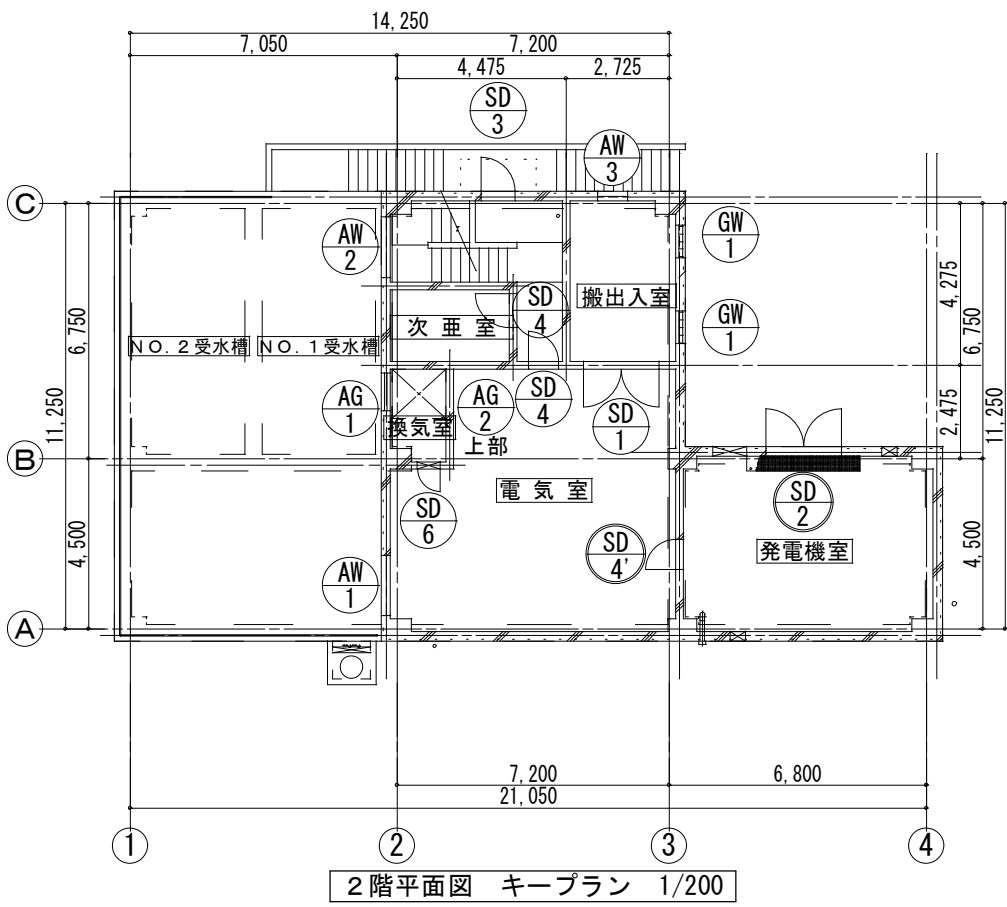
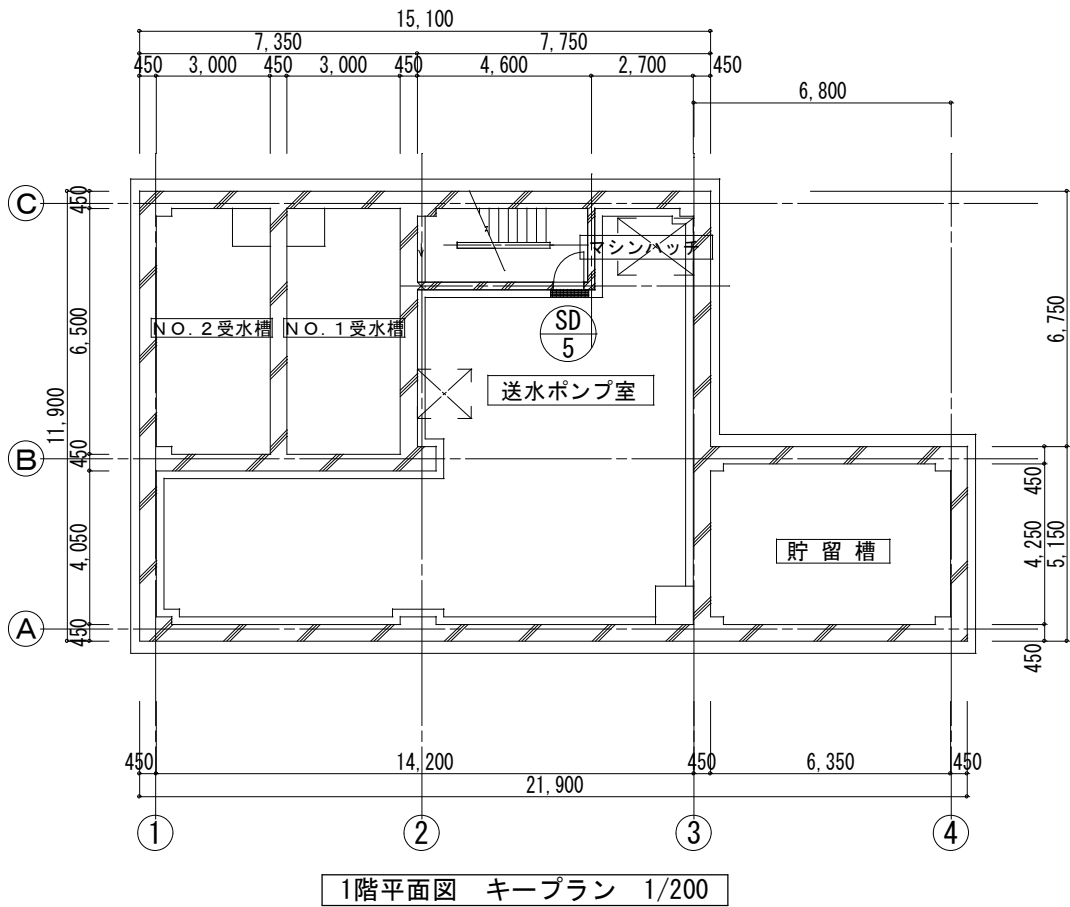
ハンド・ホール詳細図 S=1:50

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名		(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所		甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	矩 計 図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-16/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			

記号・数量	<div><div>AW1</div>アルミ製引違窓</div> 1	<div><div>AW2</div>アルミ製ハメ殺し窓</div> 1	<div><div>AW3</div>アルミ製突出し窓</div> 1	<div><div>GW1</div>アルミ製ガラスブロック枠</div> 2	<div><div>SD1</div>鋼製両開き扉 (SAT・簡易気密扉)</div> 1	<div><div>SD2</div>鋼製両開き防水扉 (防火設備)</div> 1
使用場所	電気室	階段室	搬出入室	搬出入室	搬出入室	発電機室
形状・寸法						
仕 上	B-2	B-2	B-2	B-2	t=2.3スチールフラッシュ SOP	t=2.3スチールフラッシュ SOP
建具見込					60	50
枠見込	70	70	70	100	140	160
硝 子	PW6.8	PW6.8	PW6.8	ガラスブロック (195角、95D)		大型戸当たり、片面締りハンドル、両面締りハンドル
金 物	附属金物 1 式	附属金物 1 式	附属金物 1 式	附属金物 1 式	大型戸当たり、内蔵型上げ落し、丁番 (3枚)	大型上げ落し、丁番 (3枚)
備 考	アルミ製額縁D115、水切り：D100、網戸	アルミ製額縁D75、水切り：D100	アルミ製額縁D75、水切り：D100、網戸	アルミ製額縁D60、水切り：D85	鋼製額縁D70、SOP、沓摺：ステンレス製	鋼製額縁D130、SOP、沓摺：ステンレス製
記号・数量	<div><div>SD3</div>鋼製片開き防水扉</div> 1	<div><div>SD4</div>鋼製片開き扉</div> <div><div>SD4'</div>鋼製片開き扉 (防火設備)</div> 4-2 4' -1	<div><div>SD5</div>鋼製片開き扉</div> 1	<div><div>SD6</div>鋼製片開き扉 (SAT・簡易気密扉)</div> 1	<div><div>AG1</div>アルミ製ガラリ</div> 1	<div><div>AG2</div>アルミ製ガラリ</div> 1
使用場所	玄関	次亜室、電気室、発電機室	送水ポンプ室	換気室	換気室	排気塔
形状・寸法						
仕 上	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	t=1.6スチールフラッシュ SOP	B-2	B-2
建具見込	50	40	40	40		
枠見込	160	120	100	120	70	70
硝 子		FW6.8		FW6.8		
金 物	両面締りハンドル、丁番 (3枚)	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC、戸当たりゴム	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC、戸当たりゴム	シリンダー錠、レバーハンドル、丁番、DC	附属金物 1 式	附属金物 1 式
備 考	沓摺：ステンレス製	鋼製額縁4-D90・4' -D150、SOP、沓摺：ステンレス製	沓摺：ステンレス製	鋼製額縁D140、SOP、沓摺：ステンレス製	アルミ製額縁D70、水切り：D105	水切り：D125

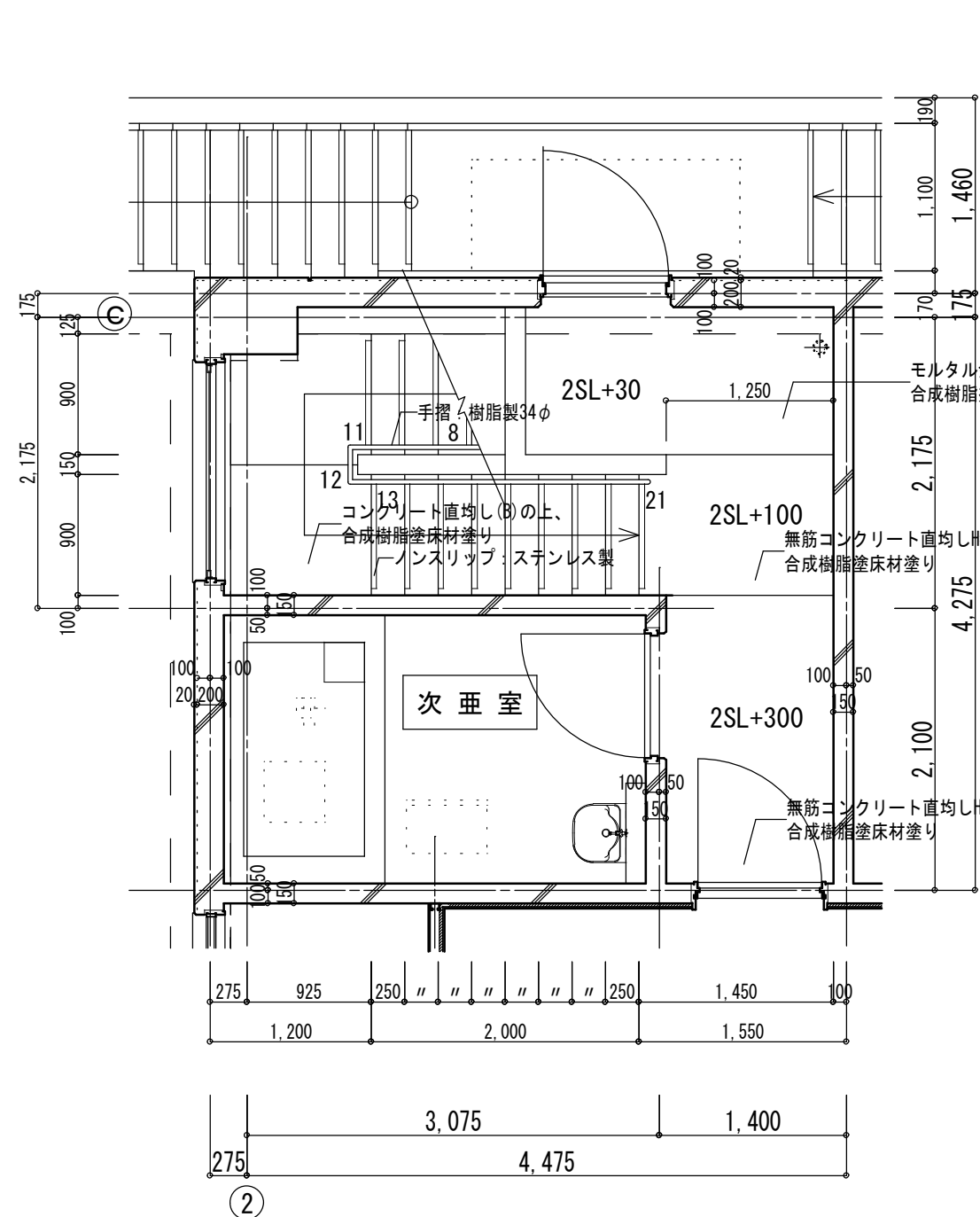
- 凡 例
- PW：網入り磨き板ガラス
- FW：網入り型板ガラス
- ＊丁番はすべてステンレス製とする。
- ＊B－2：着色陽極酸化塗装複合皮膜



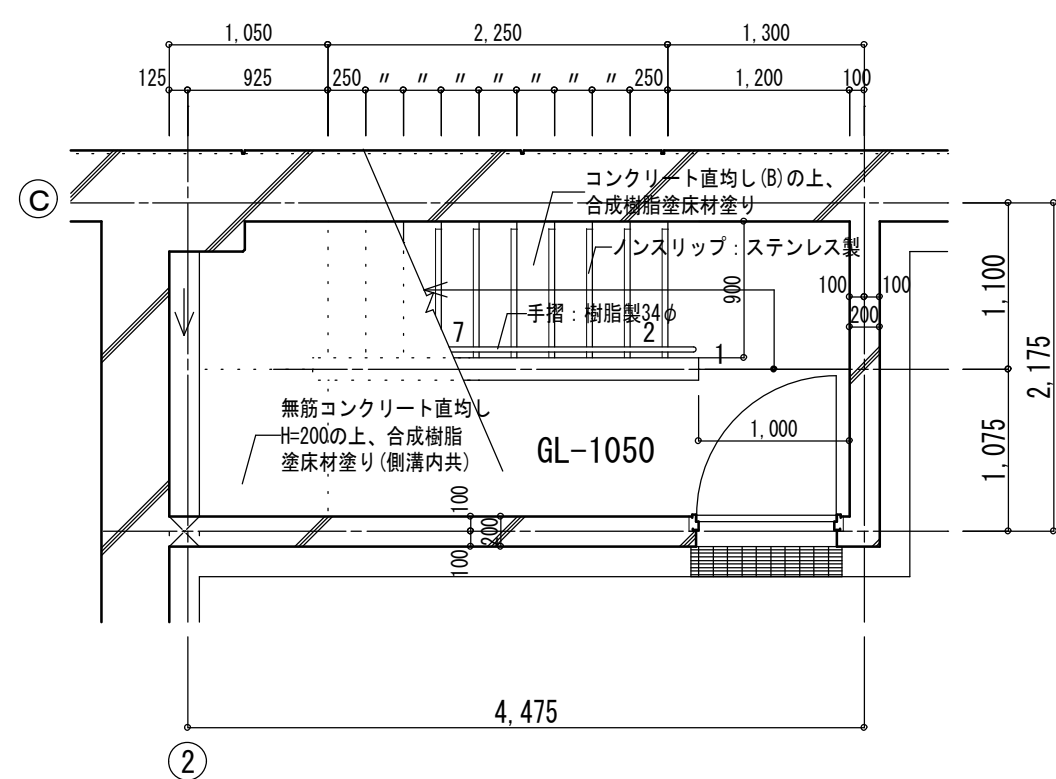
防火設備

A 2 ⇒ A 3 版

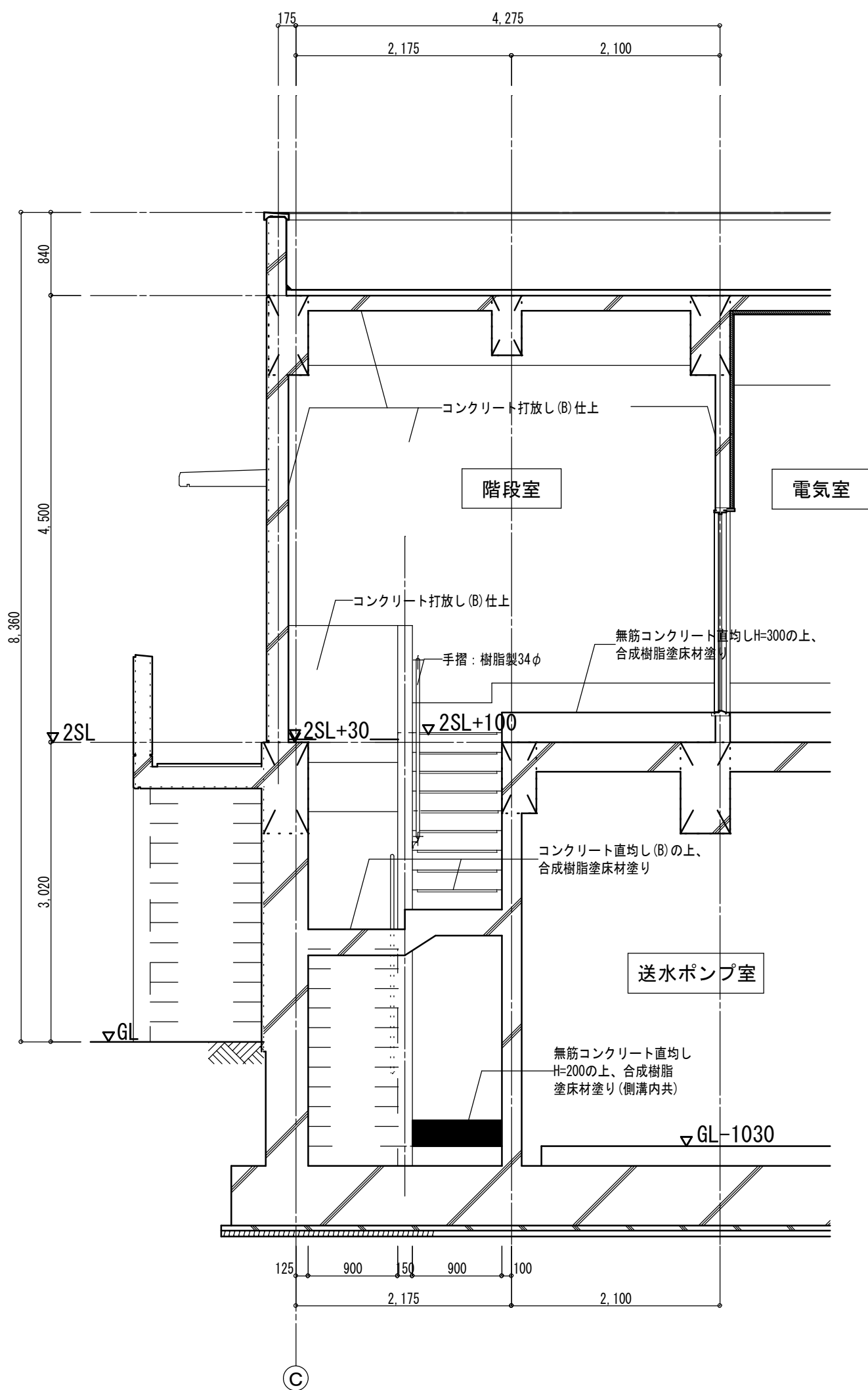
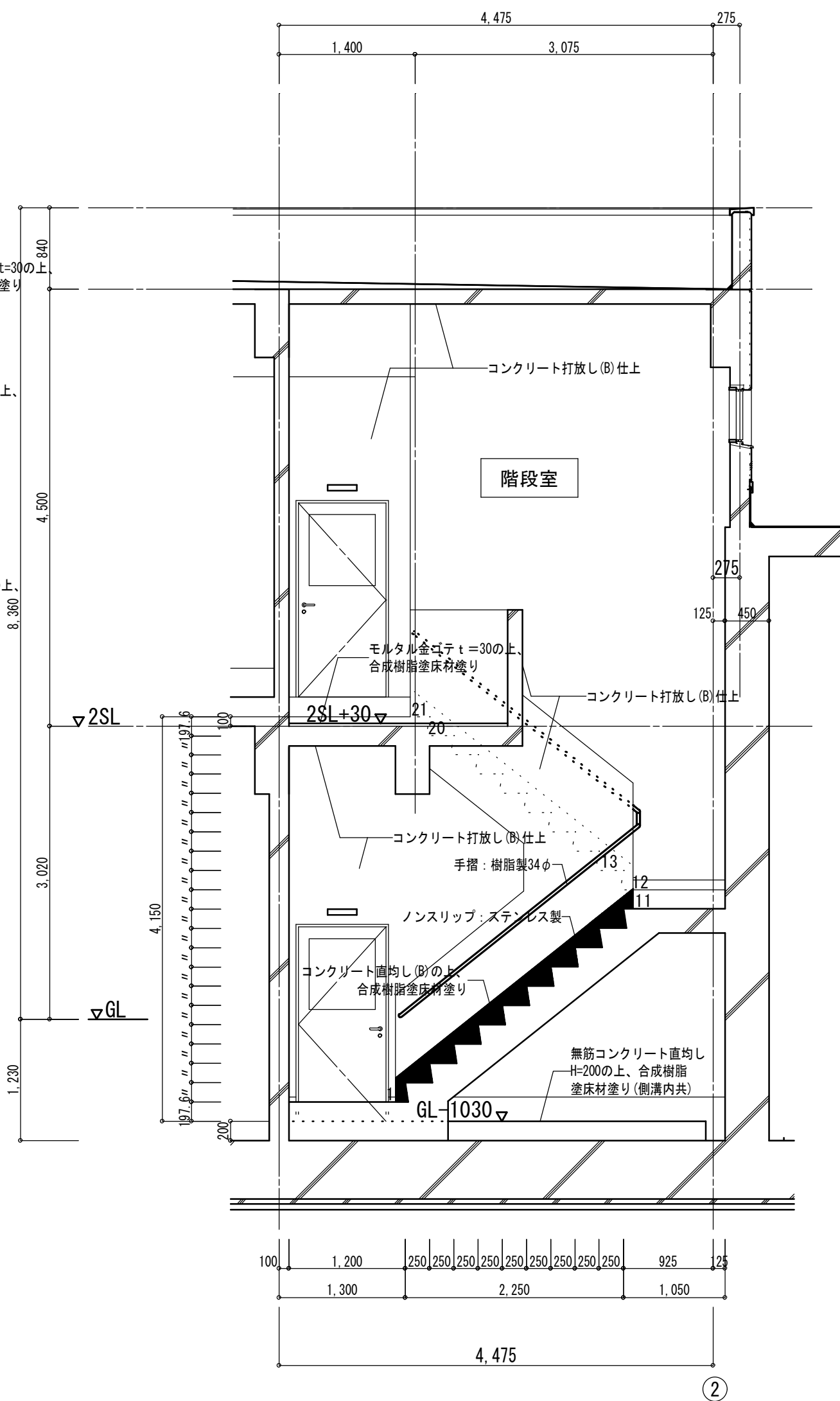
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	建具表、建具キープラン	縮 尺	1：50、200	分 割	A-17/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6－そー2	マイクNo.			



2階平面詳細図 S=1:50

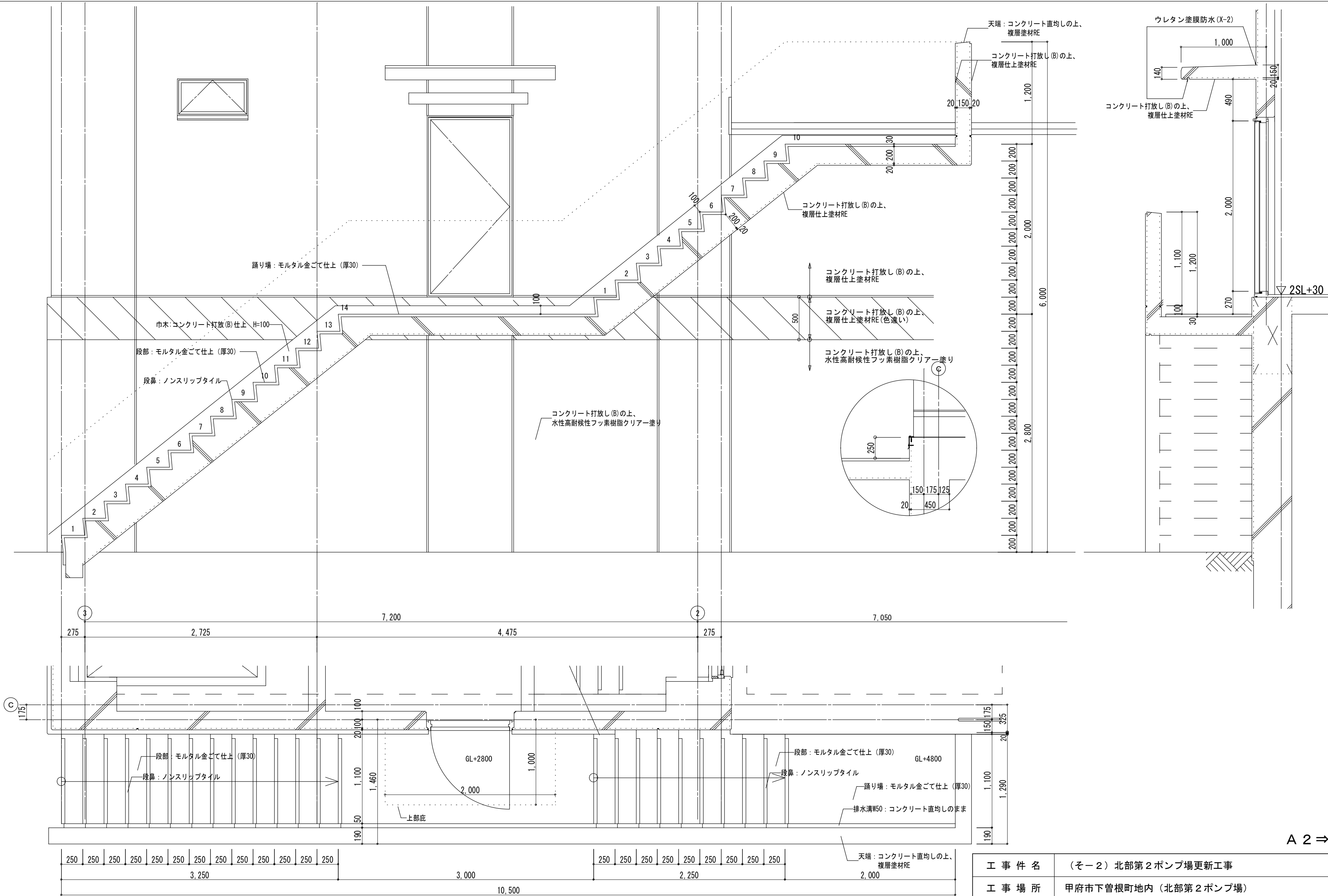


1階平面詳細図 S=1:50



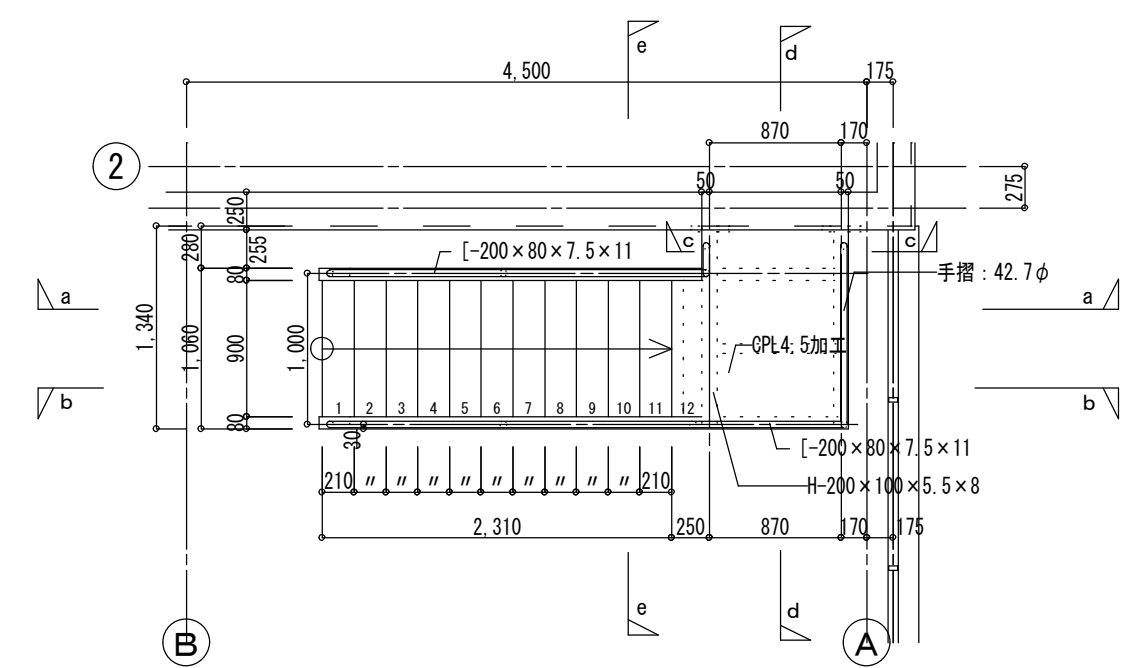
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー２) 北部第２ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第２ポンプ場）				
図 面 名	内部階段詳細図	縮 尺	1 : 50	分 割	A-18/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そ - 2	マイクNo.		

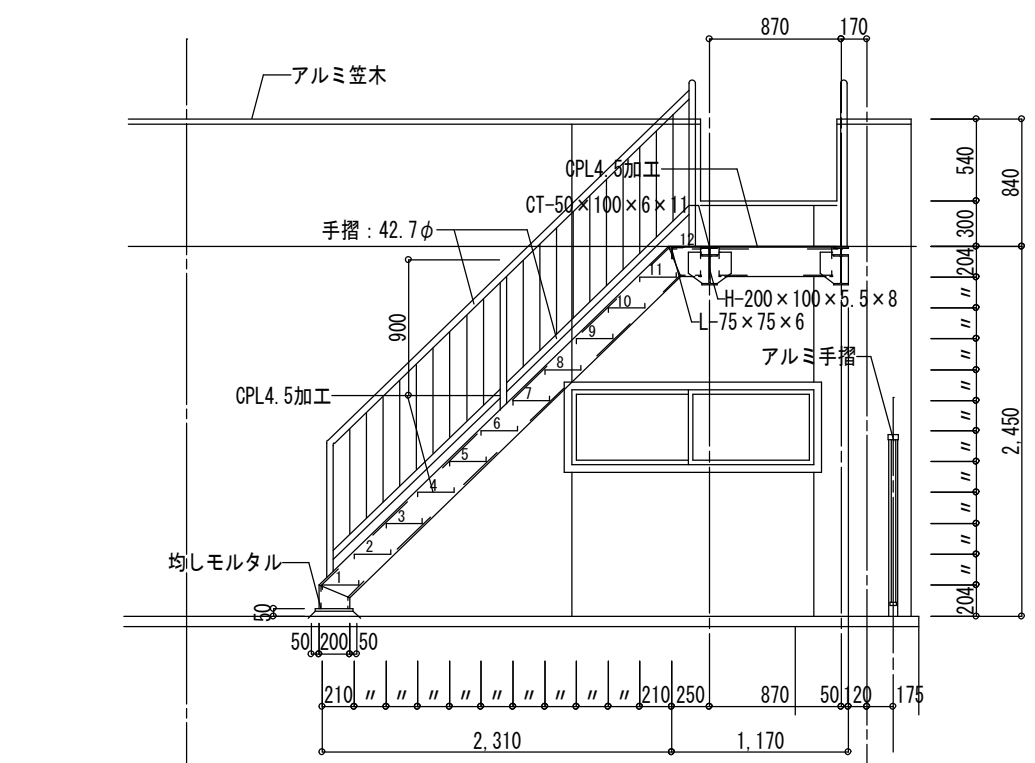


A 2 ⇒ A 3 版

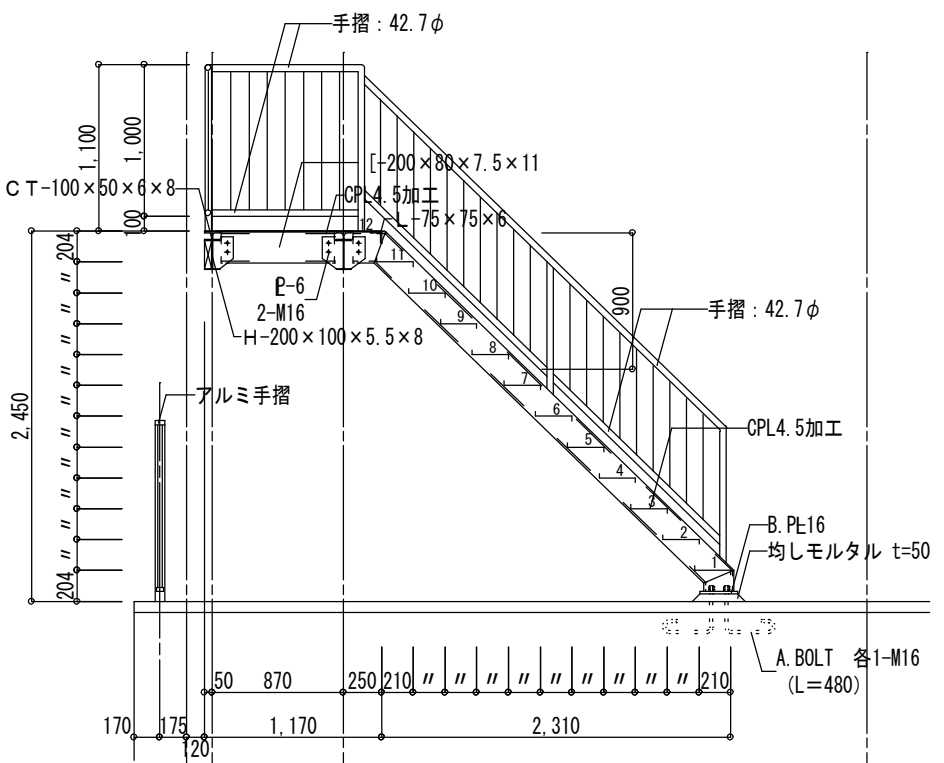
工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	外部階段詳細図 (1)	縮 尺	1 : 30	分 割	A-19/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2		マイクNo.		



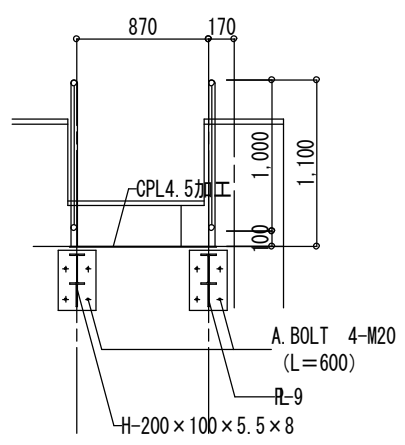
平面詳細図



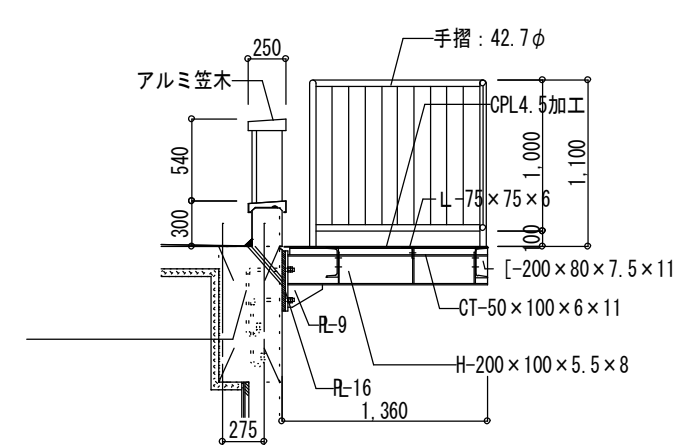
a-a断面図



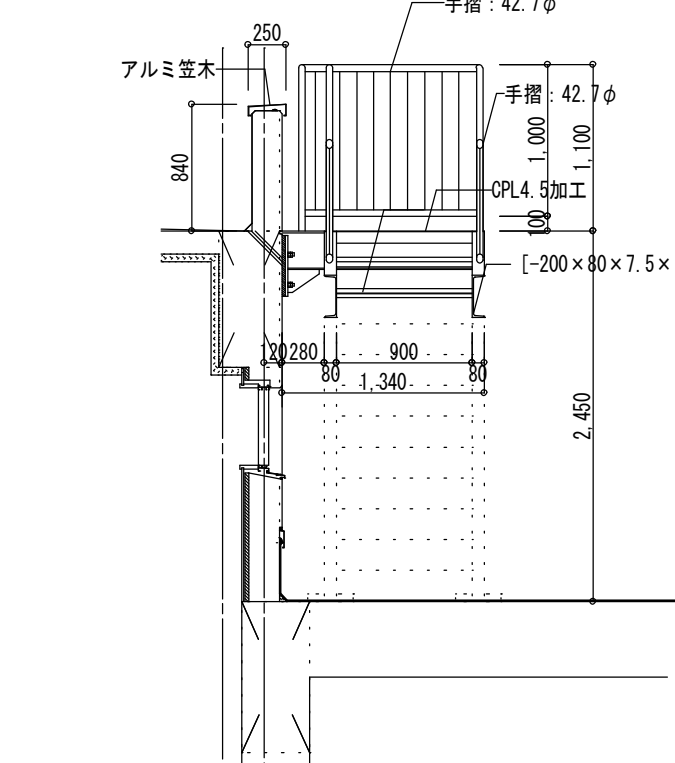
b-b断面図



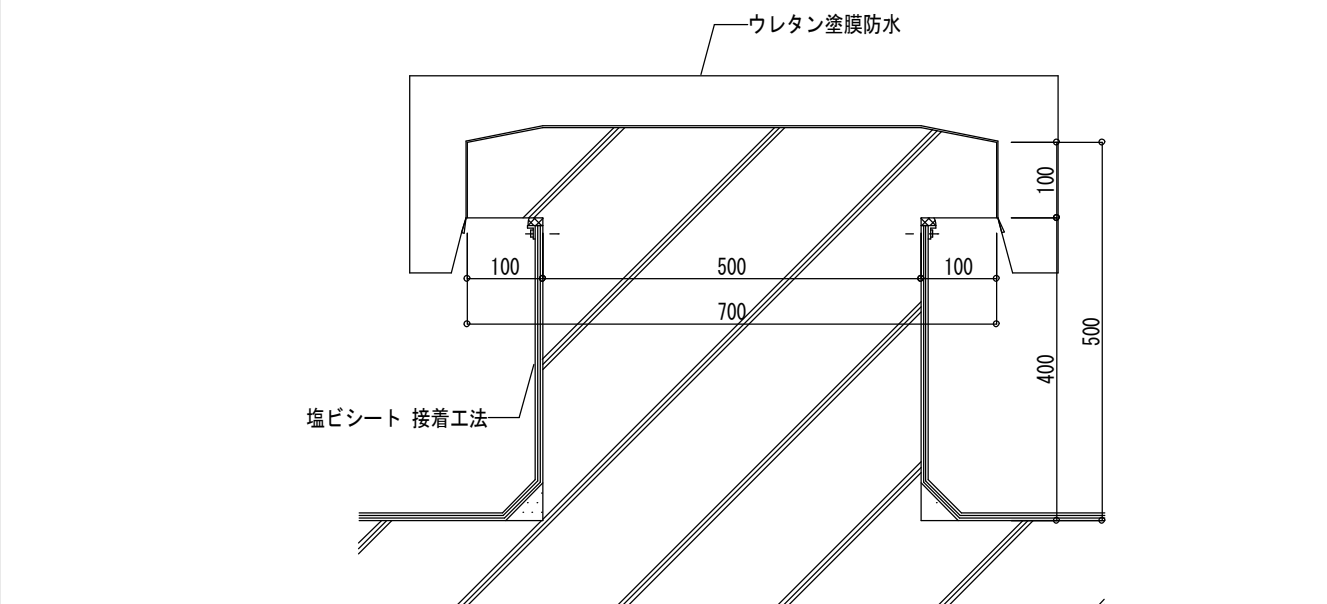
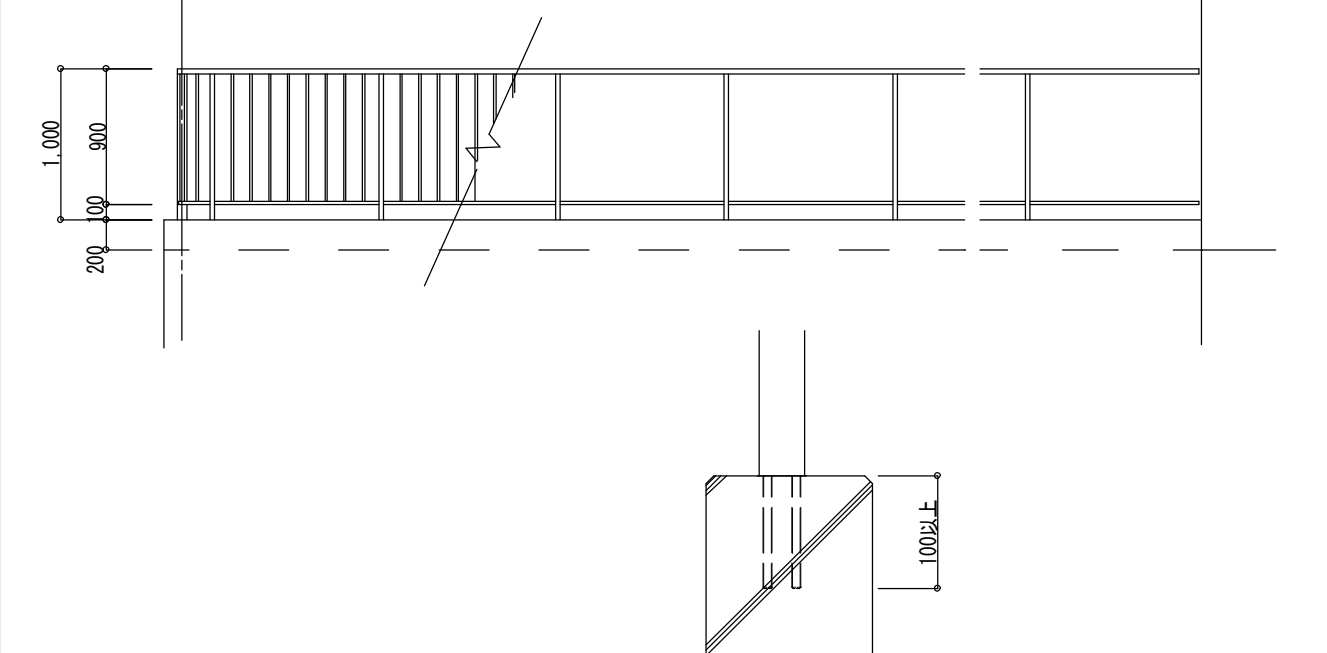
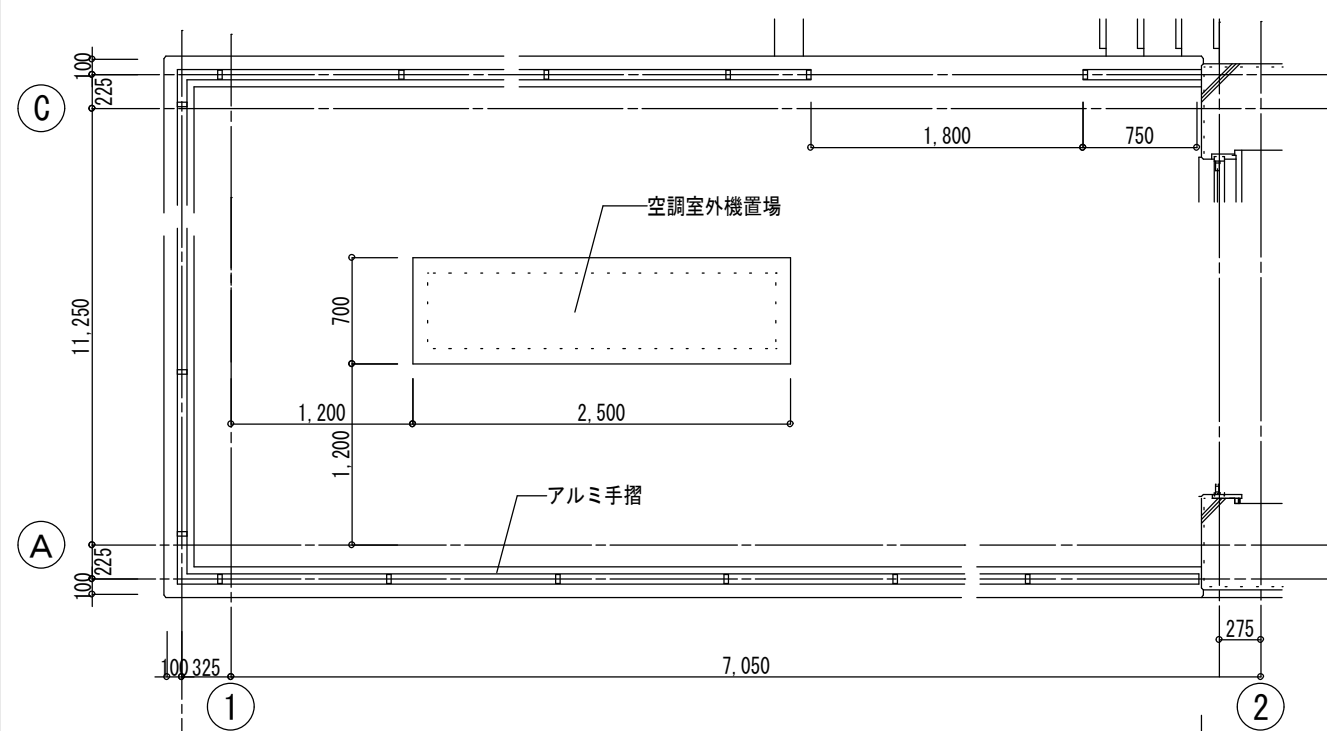
c-c断面図



d-d断面図

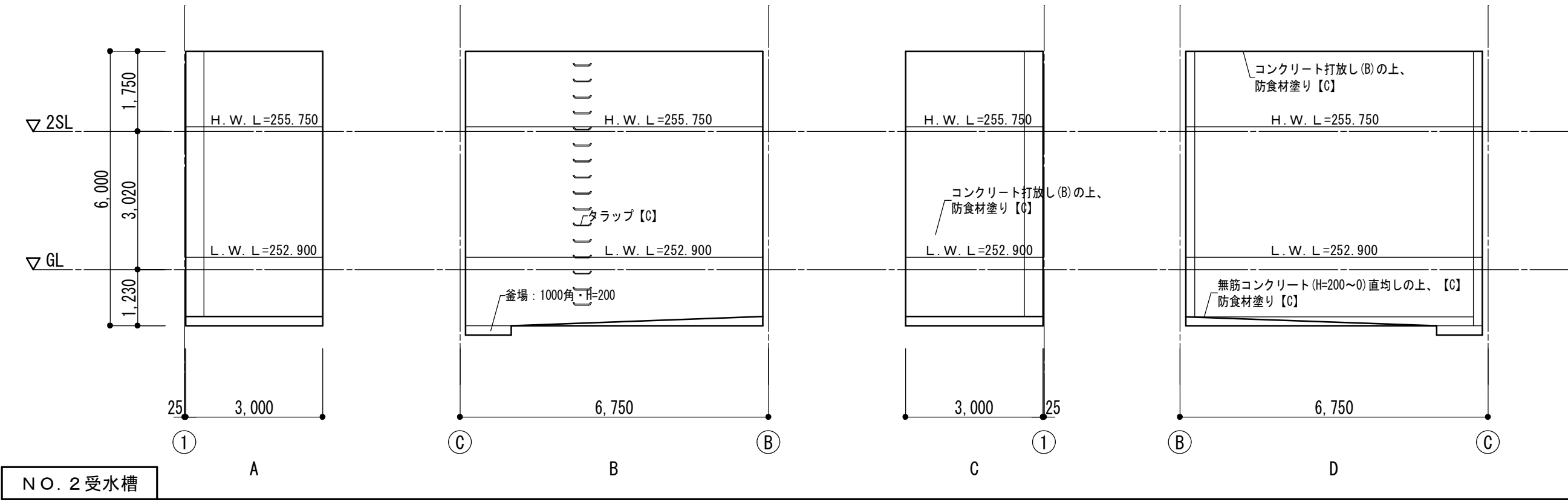
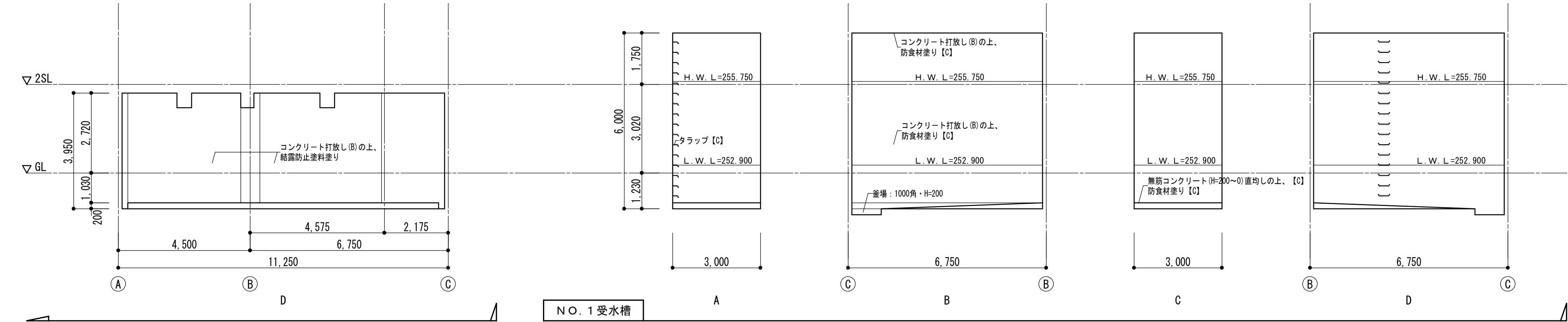
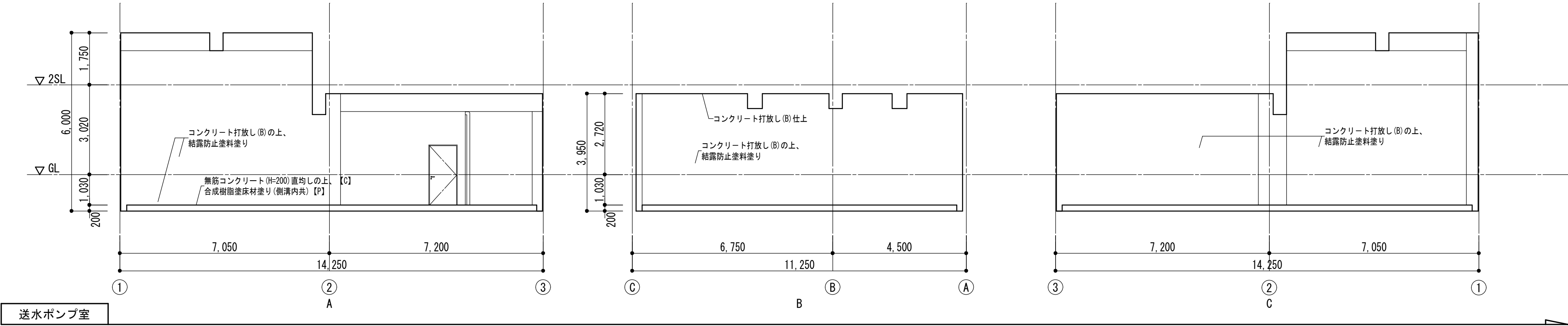


e-e断面図



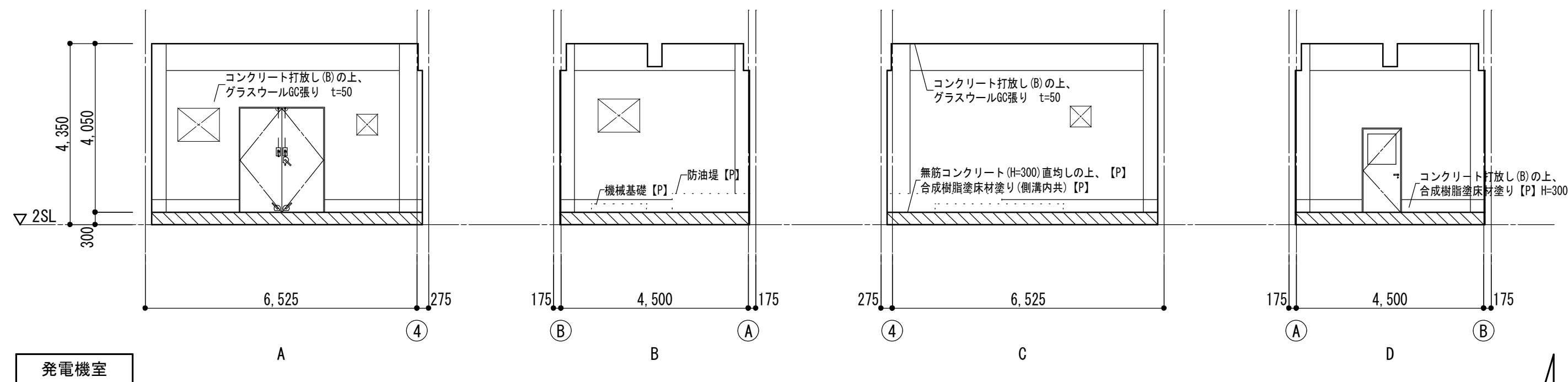
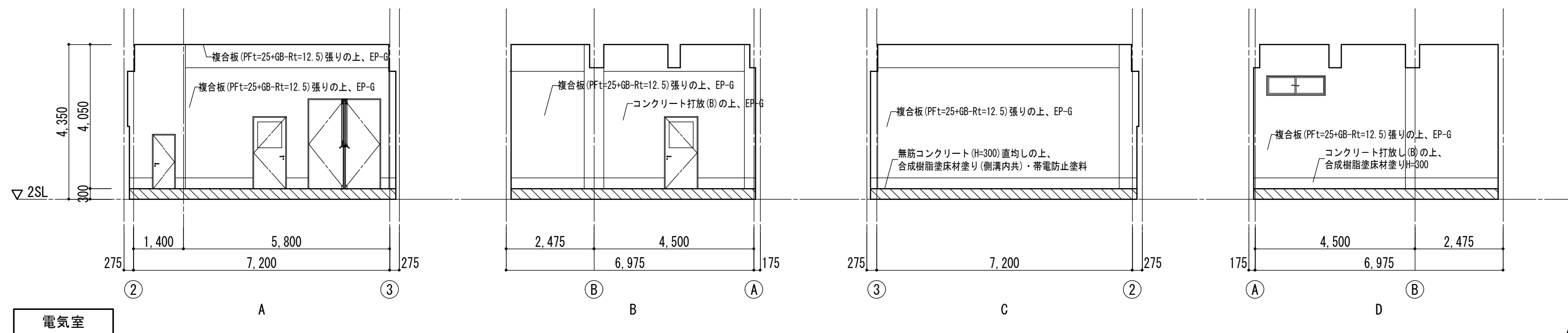
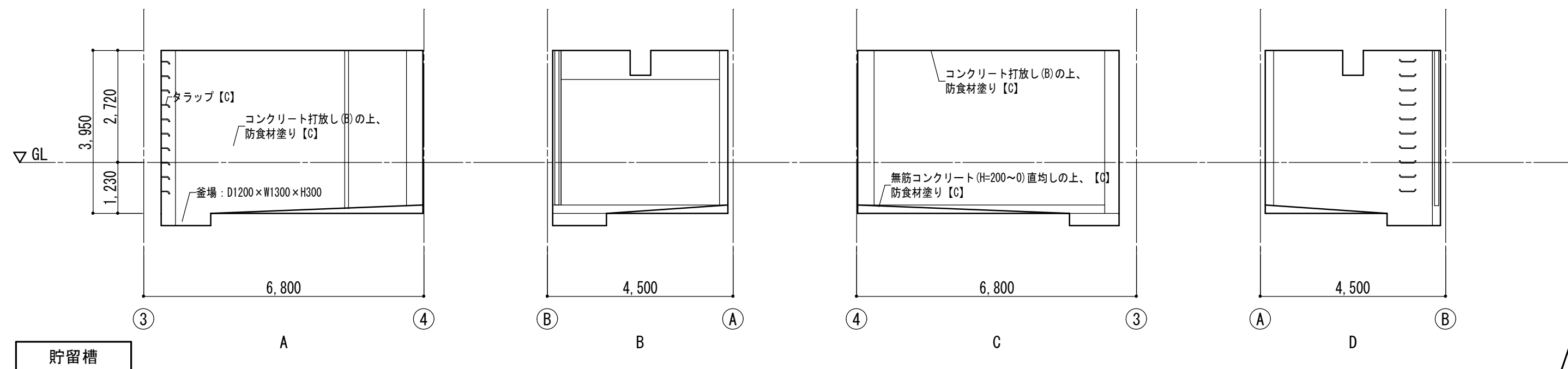
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	外部階段詳細図(2)	縮 尺	1 : 10, 50	分 割	A-20/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			



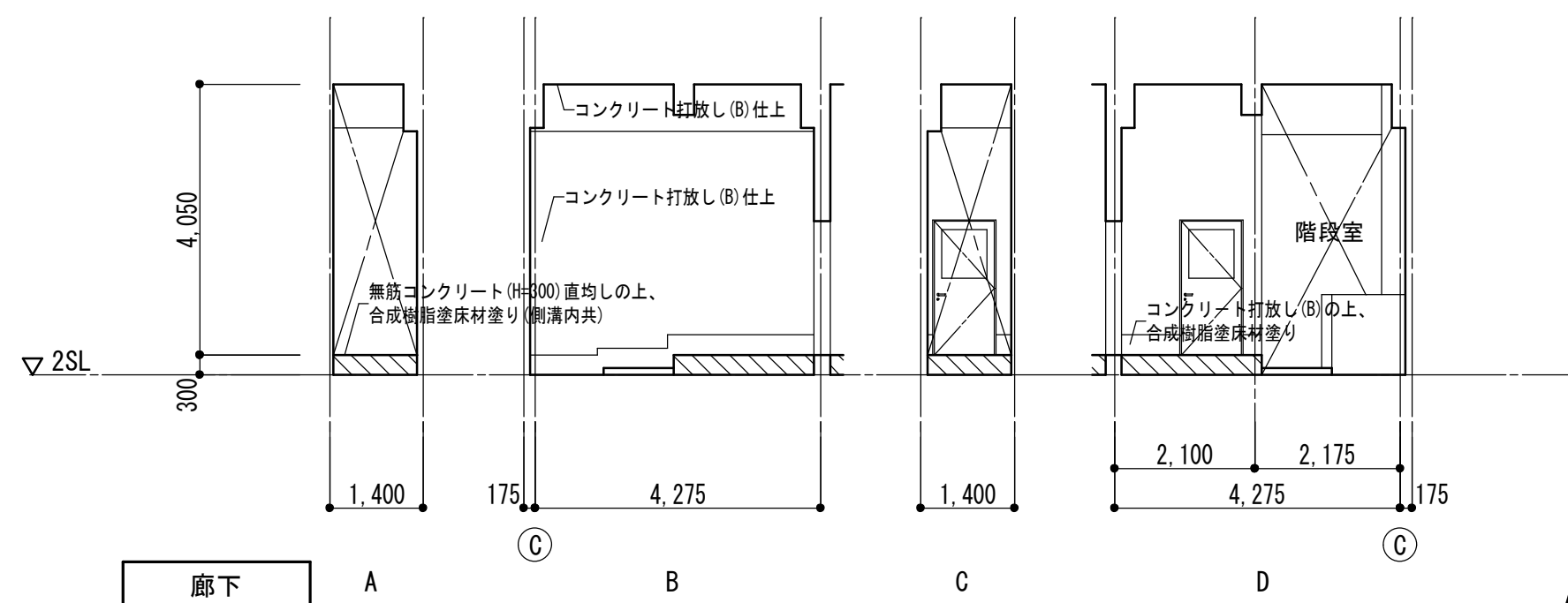
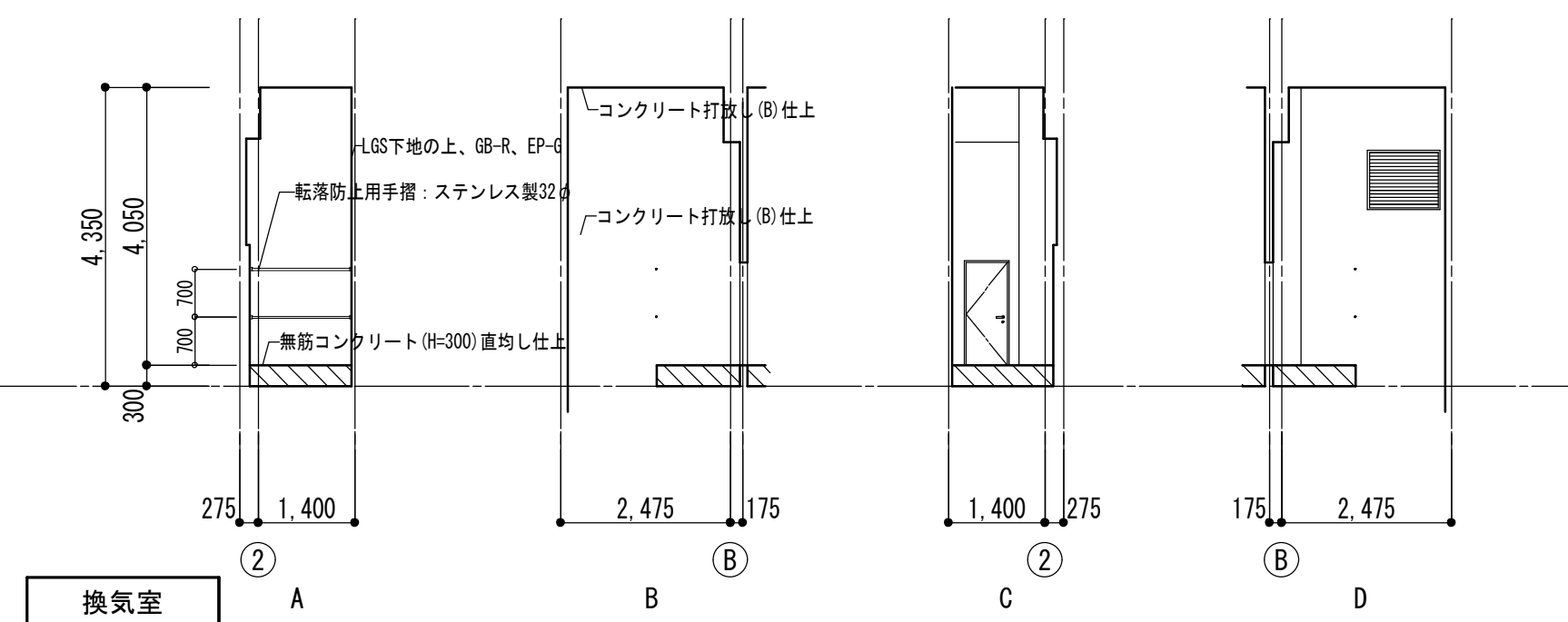
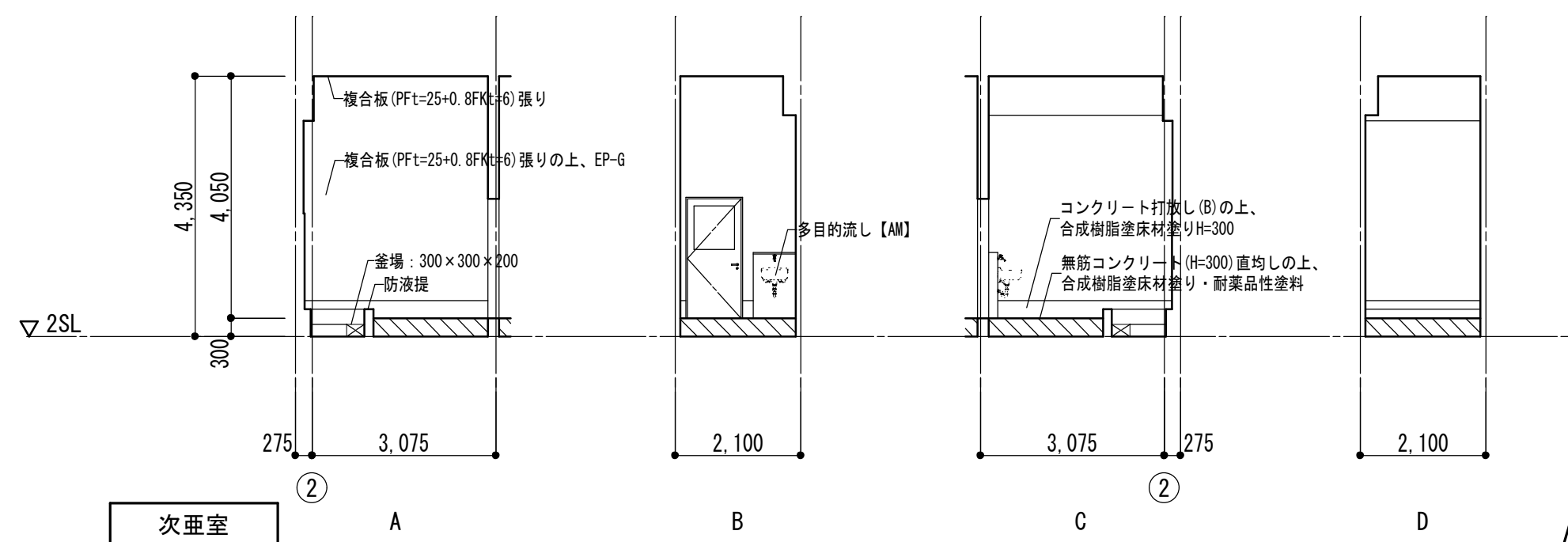
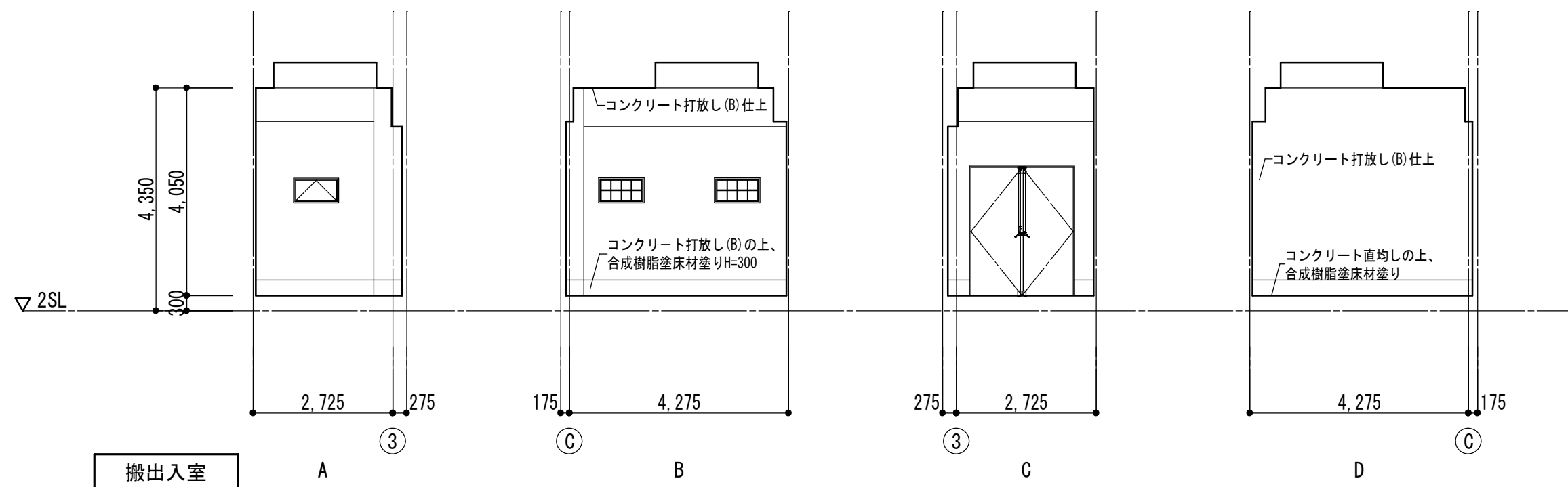
A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 1	縮 尺	1 : 100	分 割	A-21/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 -そー2	マケNo.			



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曾根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 2	縮 尺	1 : 100	分 割	A-22/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			

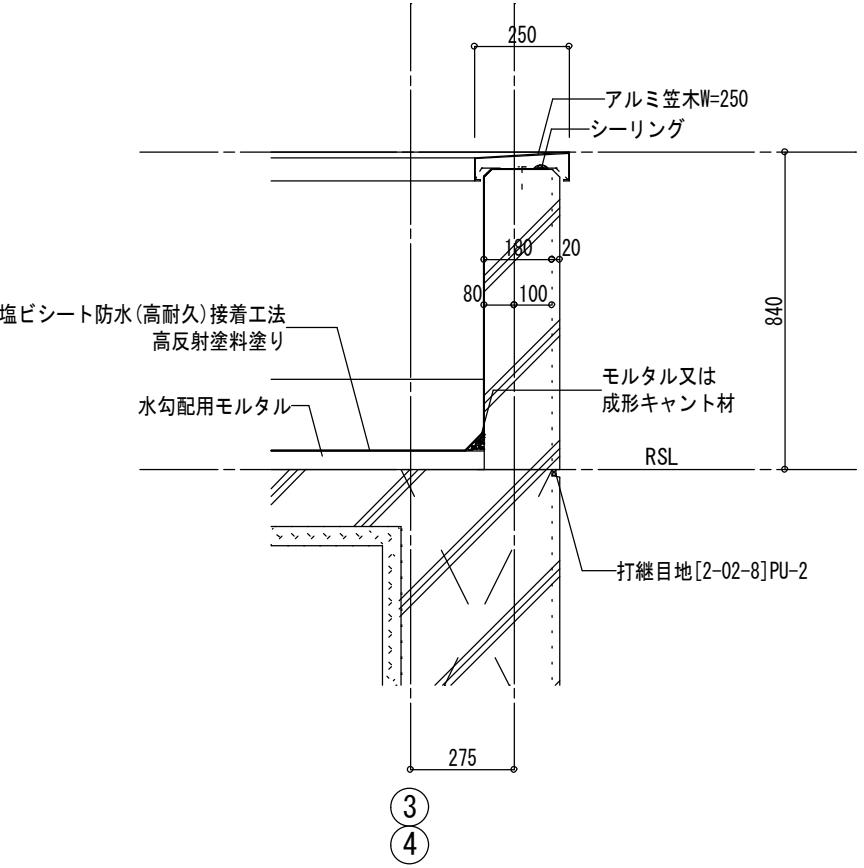


A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曾根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	展 開 図 3	縮 尺	1 : 100	分 割	A-23/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.			

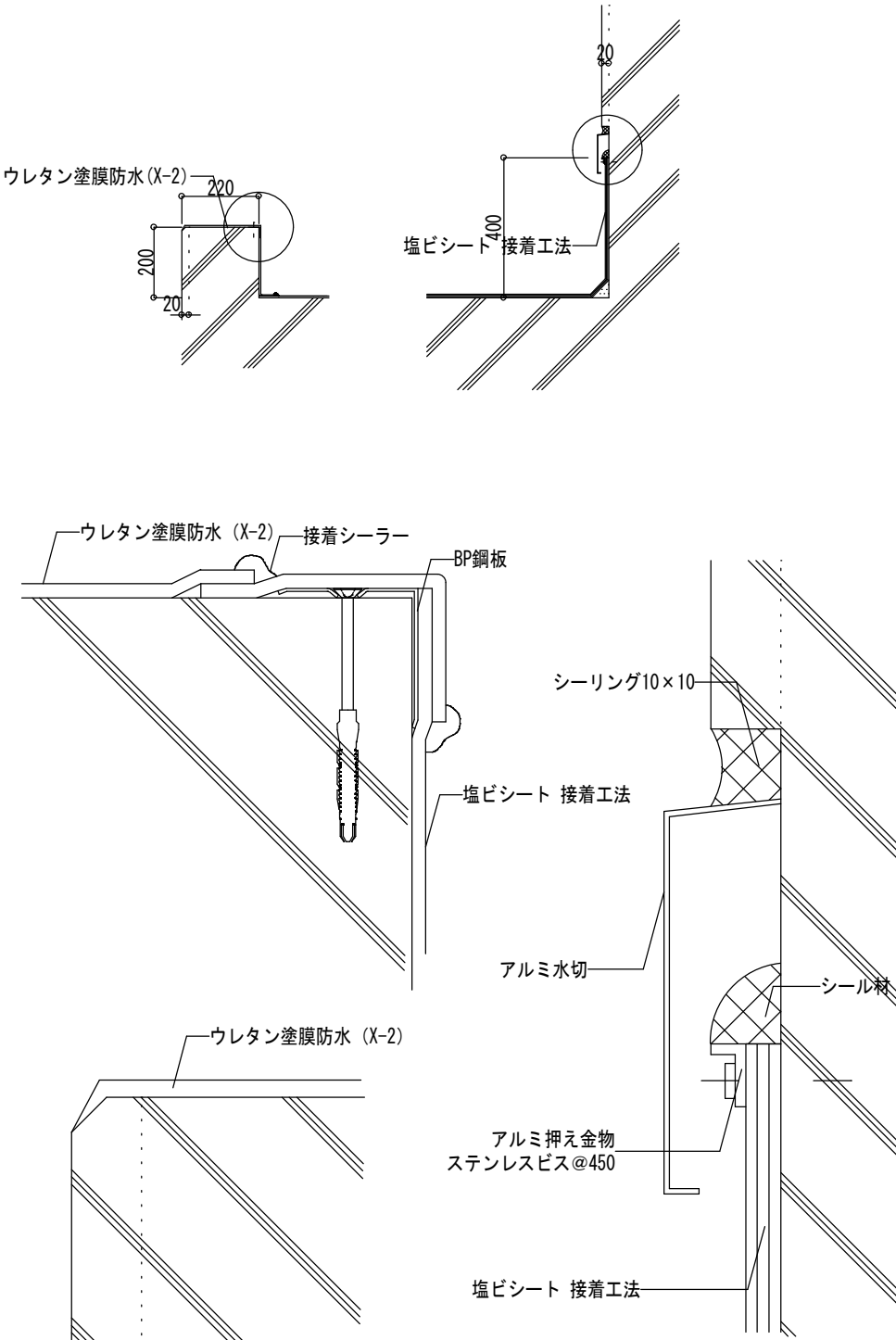
屋上パラペット廻り詳細図

S=1:20



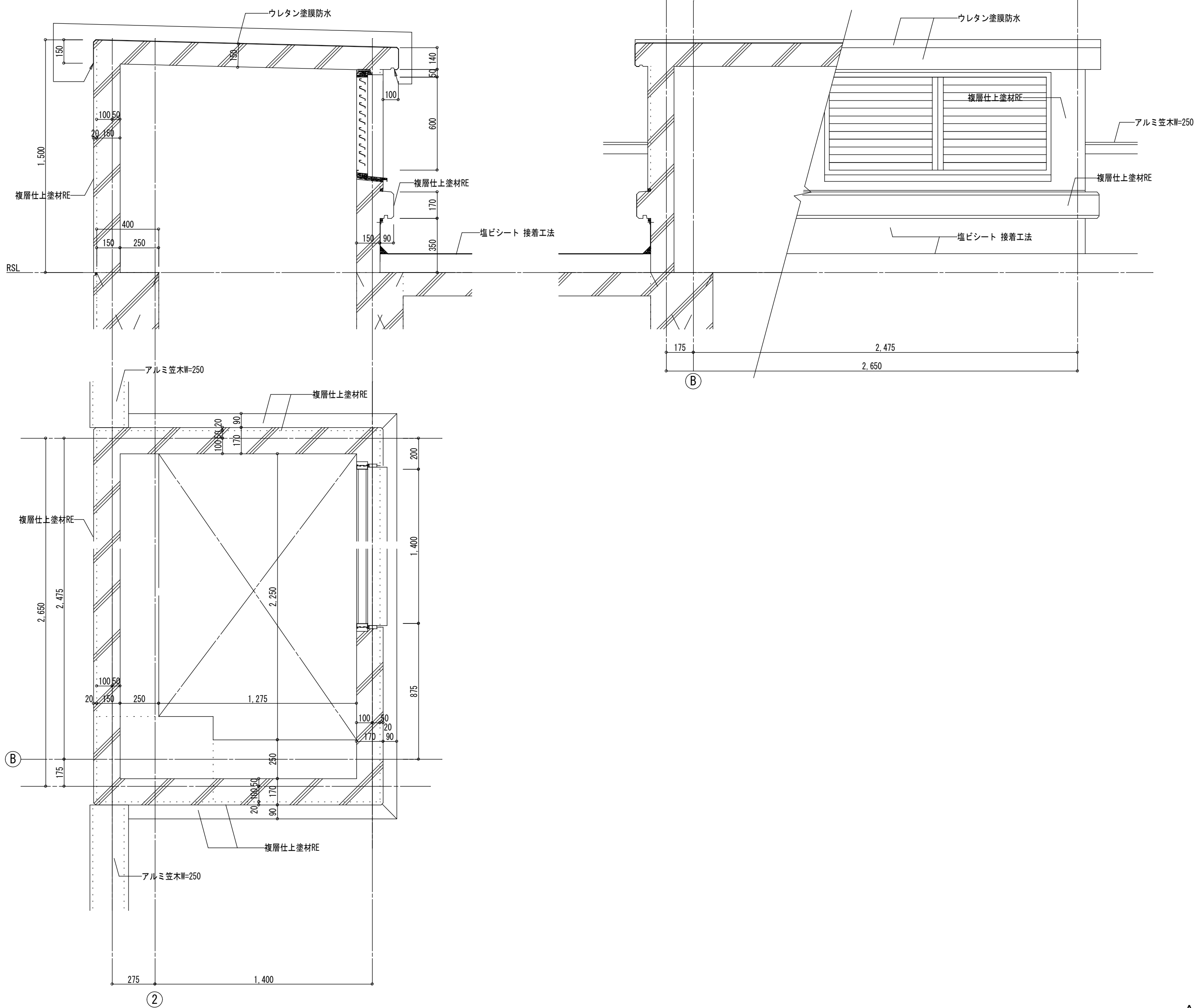
水槽上部：防水納まり詳細図

S=1:2・20



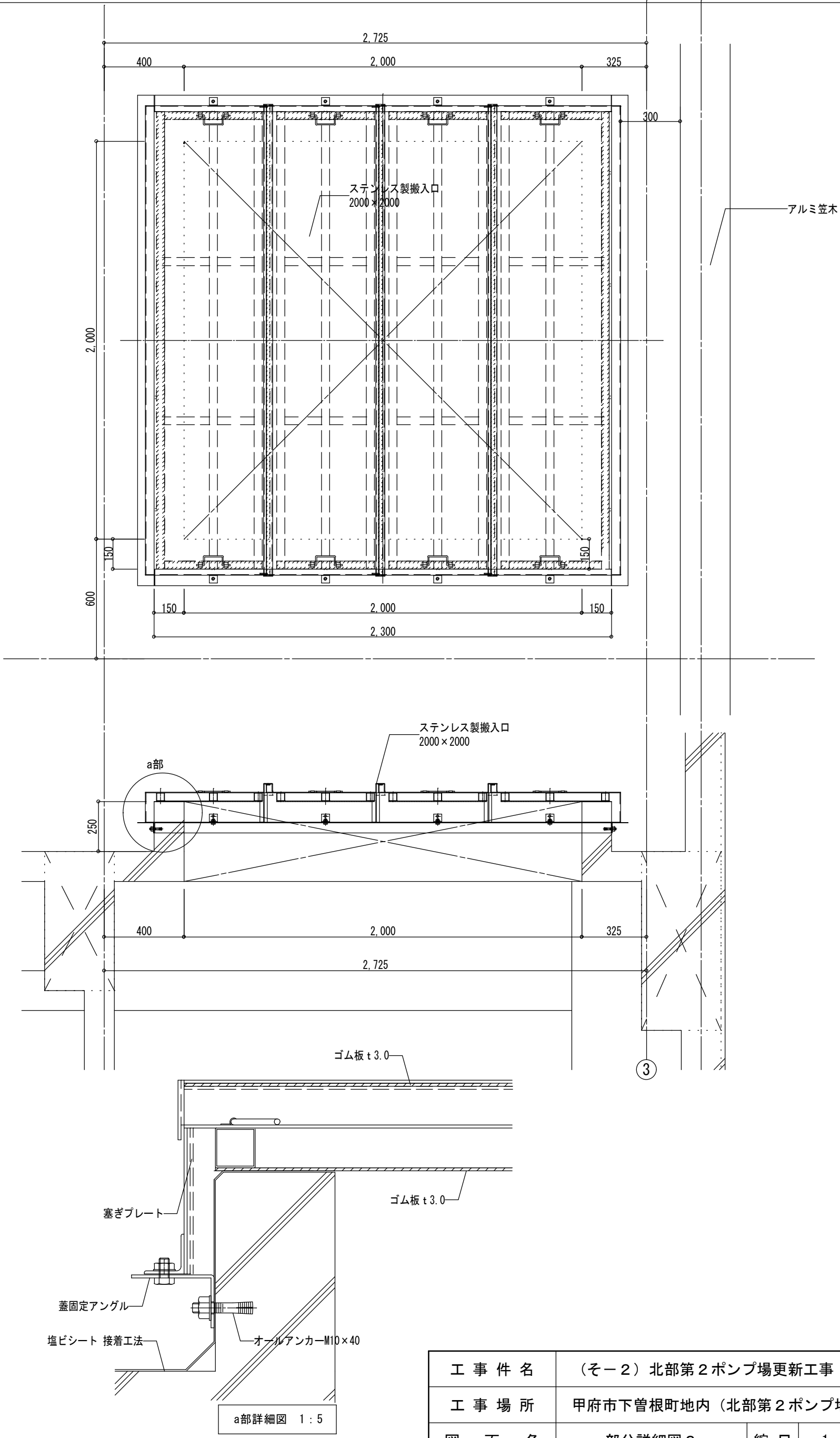
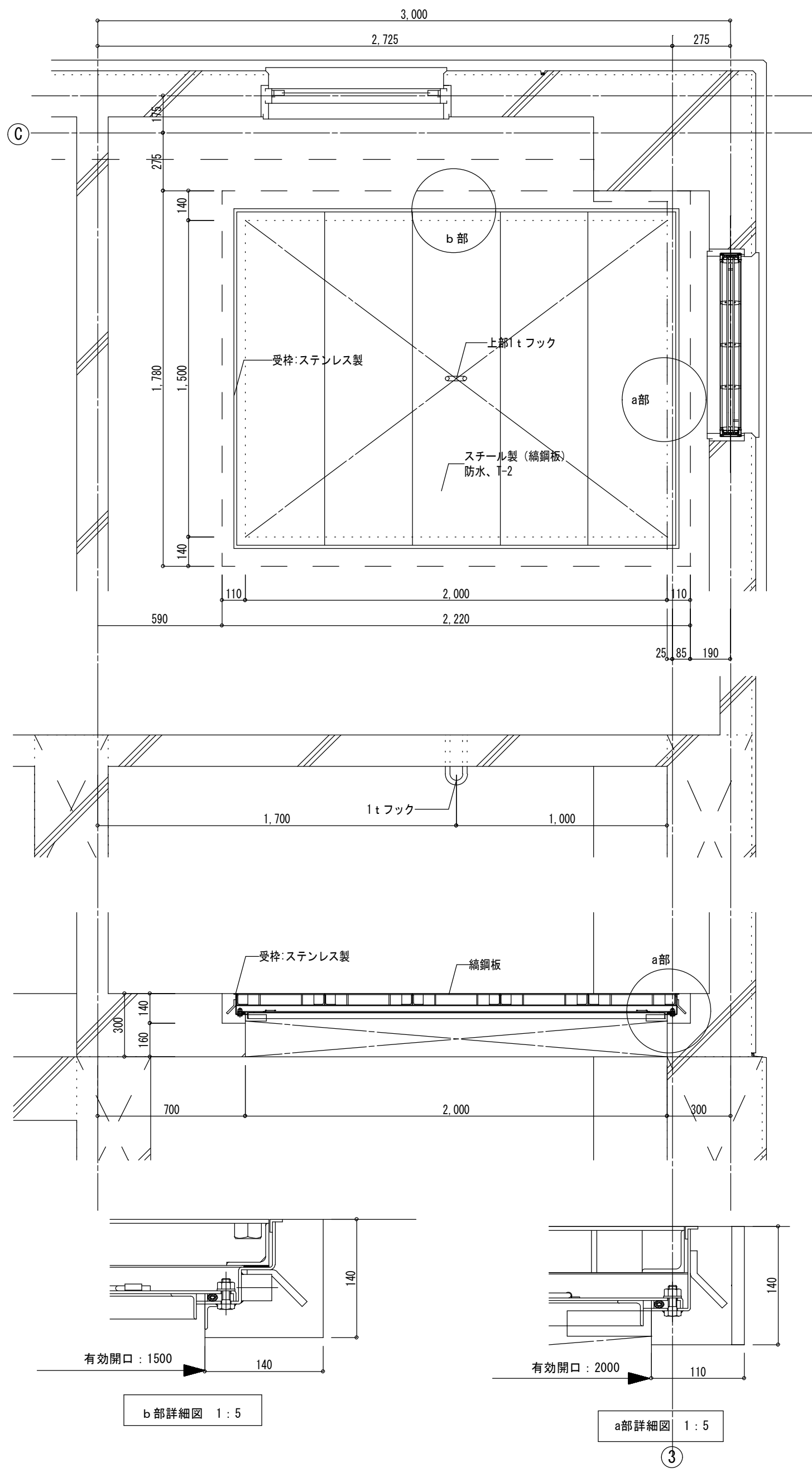
換気塔廻り詳細図

S=1:20



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図 1	縮 尺	1 : 2, 20	分 割	A-24/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 ー そ ー 2	マイクNo.			

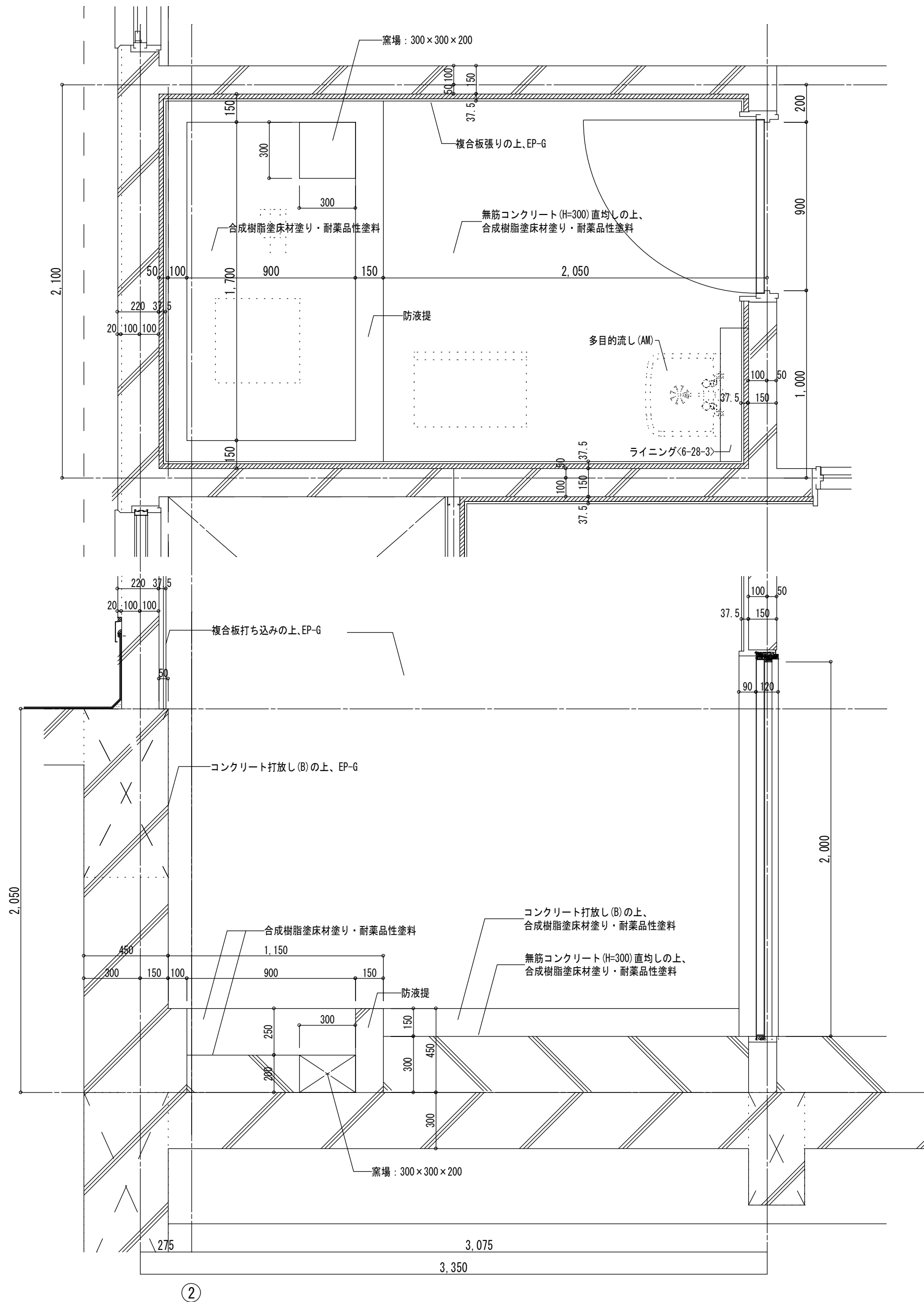


A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図 2	縮 尺	1 : 5, 20	分 割	A-25/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.			

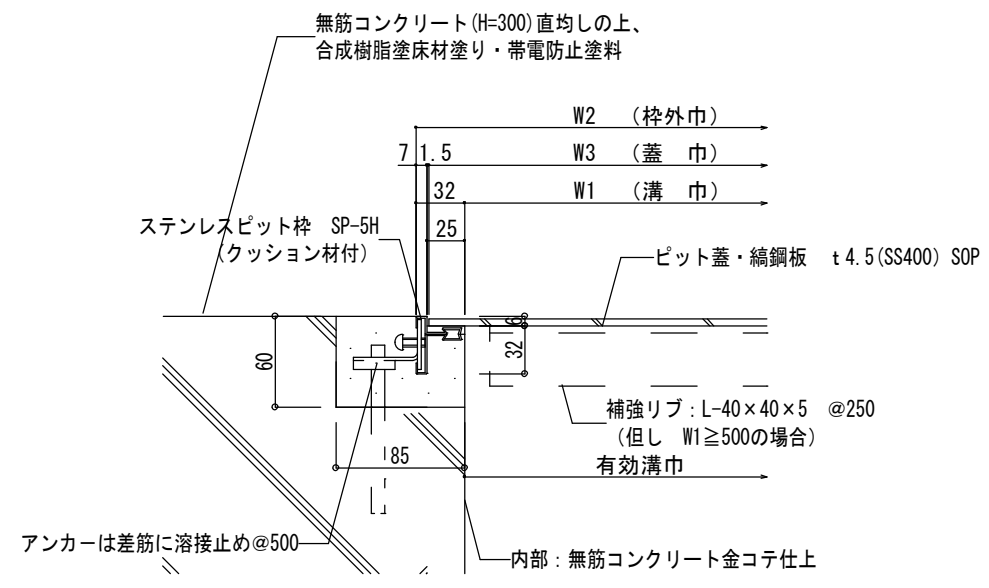
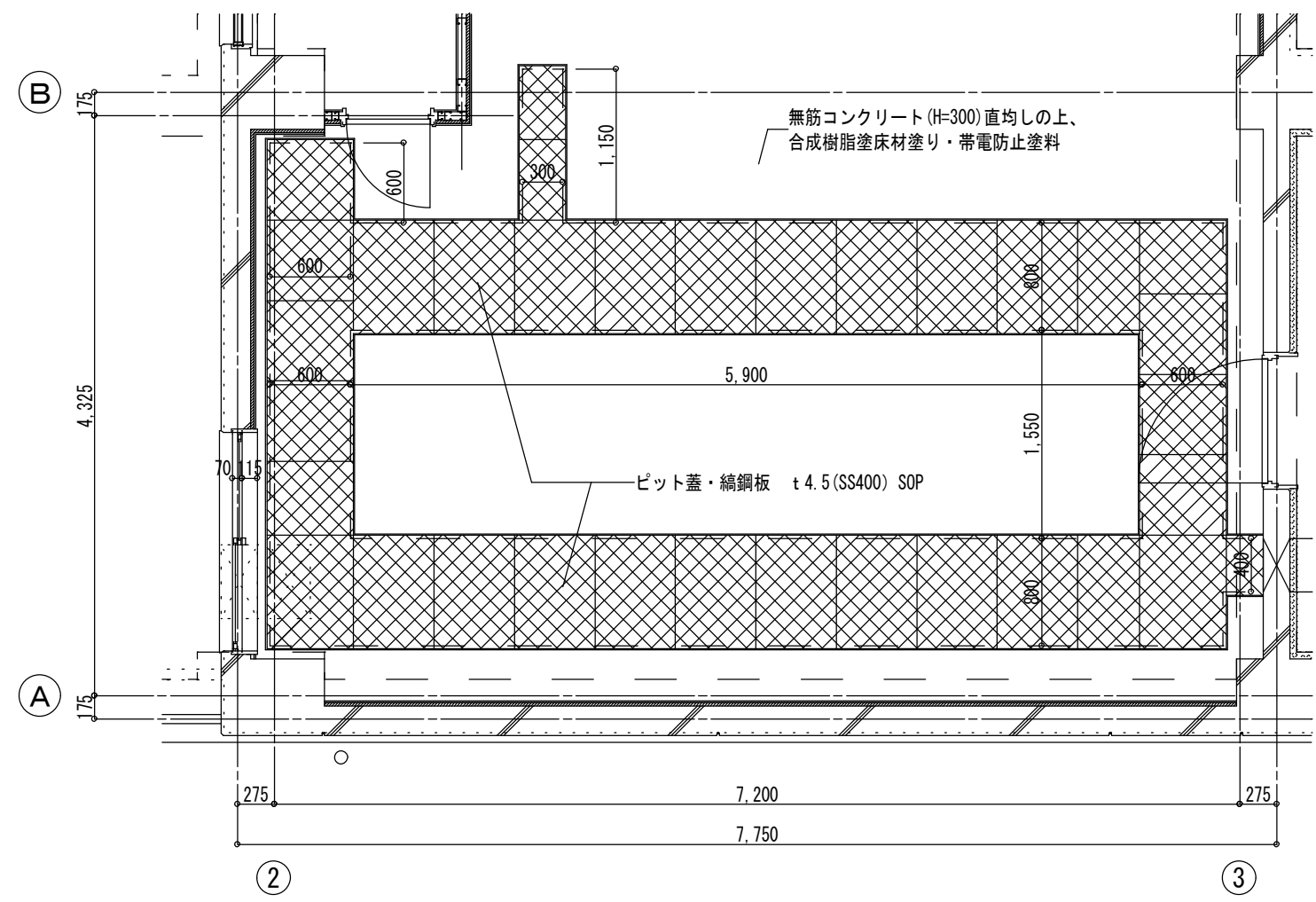
次亜室廻り詳細図

S=1:20



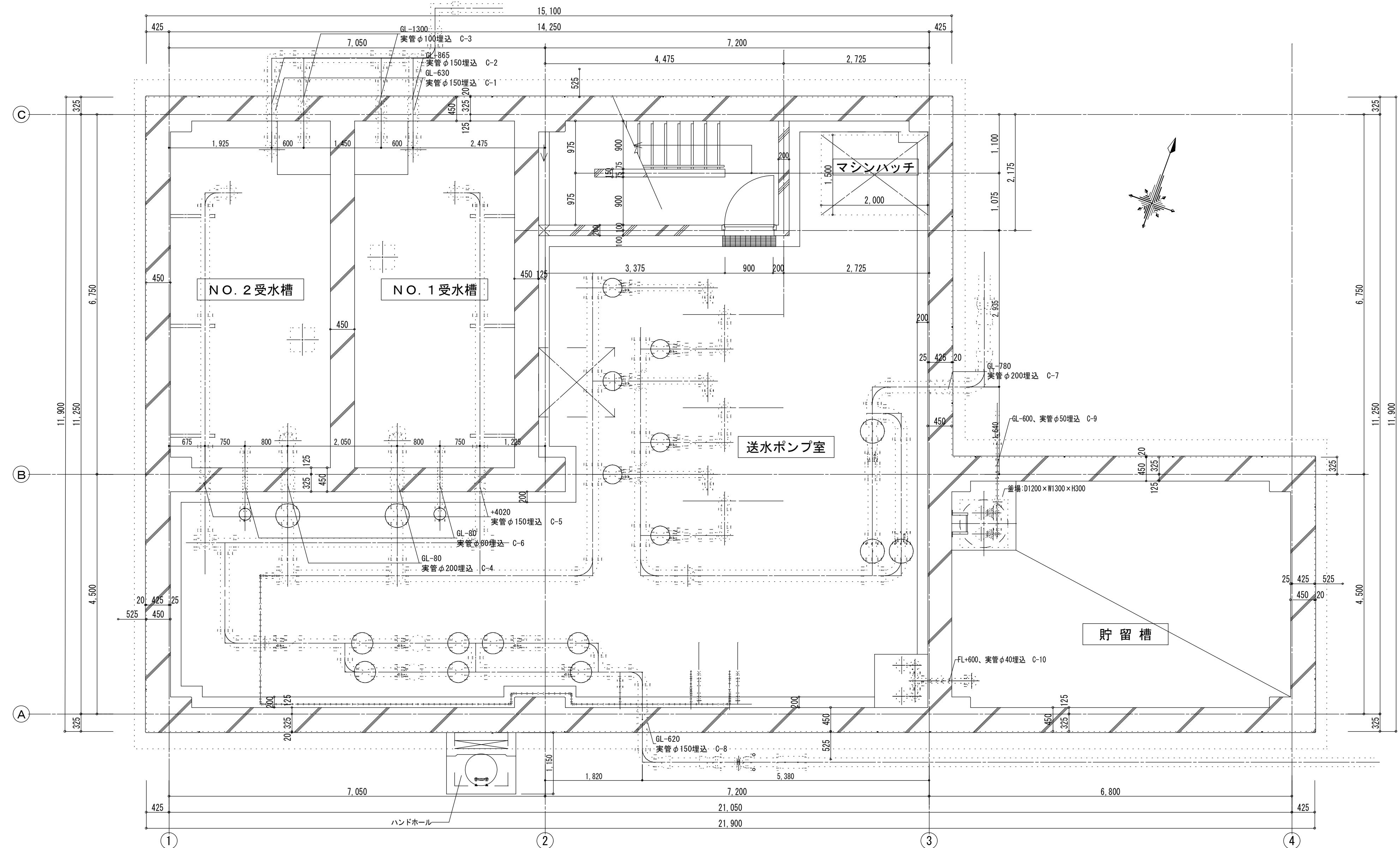
電気室ピット廻り詳細図

S=1:5, 50



A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事					
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)					
図 面 名	部分詳細図3	縮 尺	1 : 5, 20, 50	分 割	A-26/27	
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー2	マイクNo.			



符号	実管寸法	スリーブ寸法	床	壁	レベル	数量	備考
C-1	φ 150	φ 300		○	GL-630	2	土木工事
C-2	φ 150	φ 300		○	GL-865	2	土木工事
C-3	φ 100	φ 250		○	GL-1300	2	土木工事
C-4	φ 200	φ 350		○	GL-80	2	土木工事
C-5	φ 150	φ 300		○	GL+4020	2	土木工事
C-6	φ 80	φ 230		○	GL-80	2	土木工事
C-7	φ 200	φ 350		○	GL-780	1	機械・電気工事
C-8	φ 150	φ 300		○	GL-620	1	機械・電気工事

符号	実管寸法	スリーブ寸法	床	壁	レベル	数量	備考
C-7	φ 200	φ 350		○	GL-780	1	機械・電気工事
C-8	φ 150	φ 300		○	GL-620	1	機械・電気工事

1階平面詳細図 S=1:50

A 2 ⇒ A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事				
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内 (北部第2ポンプ場)				
図 面 名	1階 貫通孔位置図 (参考)	縮 尺	1 : 50	分 割	A-27/27
甲府市上下水道局	管理番号	R 6 - そー 2	マイクNo.		

新 構造設計特記仕様 その2

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9. 1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正值から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9. 2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大目認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9. 1 コンクリート圧縮強度 (N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 F _c	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9. 2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度 (JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

- 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
 - 標準
 - 長期
 - 超長期(本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。)
- コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認証工場の製品とする。
- 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二項によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランブフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランブフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合スランプ23cm以下またはスランブフロー60cm以下とし、特記による。
- コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
- コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。
- コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
 - 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
 - コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

- コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) もしくはJIS A 1107 (コンクリートからのコアの採取方法) による。
 - i) 高強度コンクリート
 - 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。
 - 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。
 - 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
 - ① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
 - ② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
 - 調合管理強度は、以下による。
$$H F_m = F_c + m S_n \quad (N/mm^2)$$
$$H F_m : \text{高強度コンクリートの調合管理強度} \quad (N/mm^2)$$
$$F_c : \text{コンクリートの設計基準強度} \quad (N/mm^2)$$
$$m S_n : \text{高強度コンクリートの構造体強度補正值で JASS5 による。}$$
 - 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
$$H F \geq H F_m + 1.73 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$$H F \geq 0.85 H F_m + 3 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$
$$H F : \text{高強度コンクリートの調合強度} \quad (N/mm^2)$$
$$\sigma_H : \text{高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差} \quad (N/mm^2) \text{ で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、} 0.1 (F_c + m S_n) \text{ とする。}$$

ii) 普通コンクリート

- 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。
- 構造体コンクリート強度は表9. 3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 ⁽¹⁾	判定基準
標準養生 ⁽²⁾	28 日	$X \geq F_m$
コ ア	91 日	$X \geq F_q$

ただし、X : 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

F_m: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

- * 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
- * コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$$F_m = F_c + m S_n \quad (N/mm^2)$$

F_m : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q : コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

m S_n : 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正值 (N/mm²)

- 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。
$$F \geq F_m + 1.73 \sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F \geq 0.85 F_m + 3 \sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F : \text{コンクリートの調合強度} \quad (N/mm^2)$$
$$\sigma : \text{使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差} \quad (N/mm^2) \text{ で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は } 2.5N/mm^2 \text{、または } 0.1F_m \text{ の大きい方の値とする。}$$

(d) 検査

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。
- スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランブフローの許容差は、目標スランブフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。3回の試験で 1検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³ またはその端数ごとに 1 回行う。1 回の試験には適当な間隔をおいた 3 台の運搬車から 1 個ずつ採取した合計 3 個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3 台のトラックアジテータから採取した合計 9 個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調合および構造体コンクリート強度による。
- コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名	(都知事登録	号)
代行業者名	(登録番号	号)

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄 筋

(a) 施工

- 鉄筋はJIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子) に適合するものを用いる。
- 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9. 4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D (16) 以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D (19) 以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D () 以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D () 以上	

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

- 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
- ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
- 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
- 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

- i) 鉄筋の種類・径の検査
 - 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。
- ii) 配筋の検査
 - 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。
- iii) 鉄筋継手部の検査
 - 各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9. 5 鉄筋継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜き取り1検査ロット当たり (30) 箇所又は () %	JIS Z 3062:2014による
	□ 引張試験による検査	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0005:2017による
	□ 引張試験による検査	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波測定検査	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0003:2017による
	□ 引張試験による検査	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による

注) 1) 抜き取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。

注) 2) ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から採取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9. 6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備 考
		検査機関	施 工 者		
■	全数	全数	()	()	
□	全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	()	
□	全数	—	全数	()	
□	全数	抜き取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	()	()	

- 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。
- 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。

試験機関名	(都知事登録	号)
検査機関名	(都知事登録	号)

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9. 7に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9. 7以上の値とする。

表9. 7 設計かぶり厚さ (単位 : mm)

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋 内	屋 外 ⁽²⁾	屋 内	屋 外 ⁽²⁾
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 ⁽¹⁾	30	40	(30)	(40)

直接土に接する柱・梁・床および基礎の立上り部分、擁壁の壁部分	50
基礎、擁壁の基礎・底盤	70
水に接する部分	80

注) (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

- 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型 枠

- 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9. 8 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種 類 部 位	せ き 板		支 柱			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、梁下	スラブ下		梁下	
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	高炉セメント A 種	普通ポルトランドセメント A 種
セメントの種類	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種
	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種
コンクリートの材色 (白)	15℃以上	2	3	4	6	8
	5℃～15℃	3	5	6	10	12
コンクリートの圧縮強度	5℃未満	5	8	10	16	15
	※ 5.0N/mm ²					
設計基準強度の50%						
設計基準強度の85%						
設計基準強度の100%						

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあつては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm² 以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm² 以上。

- 注) 1) 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
- 注) 2) 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
- 注) 3) 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4) 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5) 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
- 注) 6) 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
- 注) 7) 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

A 2⇒A 3 版

工 事 件 名	(そー2) 北部第2ポンプ場更新工事									
工 事 場 所	甲府市下曽根町地内（北部第2ポンプ場）									
図 面 名	新構造設計特記仕様 その2 縮 尺	—	分 割	S- 2/22						
甲府市上下水道局	管理番号	R 6ーそー2	マイクNo.							